

令和8年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選大会展望

【完全版】

文：中島 洋己

((一社) 静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭)

令和8年度全国高校総体静岡県予選が令和8年5月23日に静岡学園高校体育館他で開幕する。地区予選を勝ち抜いた男女各32校が初日に1,2回戦、翌24日に男子:**雄踏総合体育館**・女子:**浜松開誠館高校アリーナⅡ**で準々決勝を行い、6月6日に袋井市・**エコパアリーナ**にて準決勝と5位決定トーナメント、7日に同じくエコパで決勝戦と各順位決定戦が行われる。優勝校は7月28日に大阪府大阪市の**Asueアリーナ大阪(大阪市中央体育館)**をメイン会場に、同じく大阪市・**HOS住吉スポーツセンター(大阪市立住吉スポーツセンター)**、堺市・**大浜だいしんアリーナ(堺市立大浜体育館)**および羽曳野市・**タケダハムはびきのコロセアム(羽曳野市立総合スポーツセンター)**で開幕する**全国高校総体(近畿インターハイ2026)**へ、上位3校が6月20,21日に愛知県三河地区バスケットの聖地と崇(あが)められ、Bリーグ・三河シーホースおよびWリーグ・デンソーアイリスとトヨタ紡織サンシャインラビッツのホームアリーナである刈谷市・**ウイングアリーナ刈谷**と**刈谷市体育館**で開催される**東海高校総体**への出場権を獲得する。

今年度も例年同様、各ブロック総体優勝チームの所属都道府県に年末の**ウインターカップ追加出場枠**が与えられることになり、東海総体優勝チームを輩出した県はウインター出場権が「増枠」となる。昨年は藤枝明誠が東海総体で優勝し、静岡県男子の出場枠が2年ぶりに「2枠」となり、熾烈な決勝リーグを勝ち抜き優勝を果たした藤枝明誠に加えて第2代表として浜松学院興誠がその恩恵に預かり全国切符を手にした。今年は男子だけでなく女子も東海制覇の期待がかかるが、一昨年男女共3枠を勝ち取った岐阜県に加えて長年東海のバスケットを牽引しながらも昨年からはインハイ出場枠が男女とも1枠となった愛知県、そして近年男女とも目まぐるしい躍進を続け、四日市メリノール学院女子が岐阜女子・桜花学園(愛知)を破り男女通じて三重県勢初の東海新人制覇、全国大会でも上位進出を続ける三重県の三つ巴ならぬ「四つ巴」とも言えるまさに戦国時代と化した戦いが予想される。どの県も喉から手が出るほど欲しいウインター追加出場権、増枠を狙うためには静岡県も戦国模様を勝ち抜けるチームを複数東海総体に送り込み、ウインターカップの追加出場枠を獲得する使命も担うことになる。なお、ウインター出場枠が2枠になった場合、昨年同様県予選は**決勝リーグ制**、3枠になった場合はトーナメント制に付随して**3位決定戦**を行うことが決定している。

加えて、この大会は**天皇杯・皇后杯全日本選手権大会(オールジャパン・旧全日本総合)**の出場選考も兼ねている。男女とも上位2チームが8月に**静岡県武道館**で行われる**静岡県予選**の出場権を優先的に獲得(繰上対象は4位まで)、県予選上位2チームが11月に静岡県沼津市・**沼津市総合体育館(香陵アリーナ)**で行われる**東海ブロック予選**に出場できる。東海優勝チームのみが最高峰の大会・オールジャパンに出場といういばらの道ではあるが、最終的には「バスケットの聖地」**代々木第一・第二体育館**でのプレーにつながることは選手のモチベーションを高めるに間違いない。

さらに女子は8月に開催される「**U18日清食品ブロックリーグ**」への参入戦も兼ねている。参入戦の実施方法は各都道府県の裁量に委ねられており、静岡県はリーグ戦の価値を高めるために昨年度ブロックリーグ参加チームと県1部リーグ優勝チームを対象に参入戦を行うこととし、女

子はそれぞれ浜松開誠館と浜松学院興誠が対象となり、今大会で両チームの上位がブロックリーグに出場する。男子も同様であるが、昨年のブロックリーグで全勝優勝を果たし「トップリーク入替戦」で宮崎工業・福岡第一を連破した藤枝明誠がすでに2年ぶり3度目の「U18日清食品トップリーク」出場を決めているため今年も参入戦を行わず、昨年度県1部リーグ優勝の浜松開誠館が自動的に5年連続5回目の出場を決めている。ブロックリーグで優勝すればトップリーク入替戦への出場権が与えられ、仮に入替戦でトップリーク出場は逃しても来年度のブロックリーグ出場権を自動的に付与されるというメリットも大きい。昨年はトップリークが北里アリーナ富士（富士市総合体育館）で県内初開催、ブロックリーグも7試合が県内で開催されて大盛況を見せ、サッカーが発祥と言われているリーグ戦文化が完全にバスケットにも根付いた証拠とも言える。同時に「U18都道府県リーグ」も行われ日本全国で競技階層ごとに各チームが試合機会を与えられることは競技力向上の部分で波及効果は計り知れない。

レギュレーションは昨年同様トーナメント制で行い、**東海総体出場決定戦**も兼ねた**3位決定戦**を行う。また準々決勝で敗れた4チームで**5位決定トーナメント**を行い最終日に**5位決定戦・7位決定戦**を行う。この結果は秋のウインター県予選のシード順に直接影響し、優勝チームから8位まで順位に従い該当チームに直接シードが割り当てられる。また上位8チームはウインター県予選の**スーパーシード権**も与えられ、今年も青森での**国民スポーツ大会**の関係で例年より1週間以上早い10月10日開幕となるのでさらに2週間後の10月24日、ベスト16を賭けた戦いから満を持しての登場となる。調整期間が他チームよりもかなり長く確保できることはチーム作りの上では相当なメリットと言える。今大会においても、ベスト8を確定させたチームはそのあと3試合と2週間の準備期間が約束されており、総合力強化という点で「公式戦」「大会期間」という何事にも代えられない宝物を与えられることはチームの財産になること間違いない。

また、今回県総体では初めて「**使用球およびメーカーの指定**」が行われた。ウインター予選ではすでに全国大会の規定に合わせて**モルテン12面体B7G5000(男子)・B6G5000(女子)**を県武道館で使用しているが、県総体でも上位大会である東海総体・全国総体の規定に合わせて、準決勝・決勝では男子：**モルテン8面体B7C5000**、女子：**ミカサ8面体CF6000**を使用する。昨年までは審判判断だったが先を見据えた県高体連の英断に拍手を送りたい。なお男女別に使用メーカーが分かれる、そしてミカサのボール使用指定は県内では初めてである。

年度末にホームページで告知させていただいた「**県協会公式アプリの運用停止**」の報には多くの方々から落胆と心配の声が多く届いた。私も運用停止の第一報を聞いた時、我が耳を疑い声も出なかった。昨年度1年間このアプリの普及・浸透のために心血注いで取り組んできたため私自身も立ち直れない精神状態が続いた。しかしながら多くの方々から励ましの声掛けをいただくとともに後継システムや後発機器への期待の言葉をいただいたのも事実である。公式アプリでの教訓を生かしながら「**持続可能な後継システム**」「**仕事を属人化させない組織力の構築**」を目標に、現在協会ホームページ管理をお願いしている本協会サポートカンパニー・**(株)LEAPH**様の協力を頂き、撮影したスコアシートを指定のフォルダに格納して**AIが情報を解析**、必要に応じて確認しながら会場主任が手動で修正し解析結果を協会HPのトップバナーにインポートして掲載する「**代替システムの試行**」を地区総体で行った。まだまだ開発途中のサービスで改善の余地も予想以上に多く残り、皆様からもさまざまなご意見を頂きながら試合ごとに不具合やバグを修正し続け、最終日の5月10日までには一定の成果を残せたと自負している。それを受けて今回の県総体ではワンステップ踏み出した**公式LINE**での情報通知も合わせて試行する予定である。公式アプリで一番好評だったのはこの「**プッシュ通知機能**」、情報を受け手が取りに

行くのではなく、発信側が受け手に対し積極的に通知するこの「目から鱗」の機能が好評を博したので、さまざまなプラットフォームを検討した中で「プッシュ型メディア」の特徴を持ち、現在日本で一番普及している SNS である LINE の力を借りて試行することにした。すでに HP に公式ラインの二次元コードを掲載してあるので、登録していただきお友達追加の作業および初期設定をしていただきたい。会場からの結果伝達も含めた情報発信はまだ試行錯誤の途中であるため会場主任にも今まで以上にご足労をかけることになるが、皆様も温かい気持ちで見守っていただければと思う。なお、公式記録は引き続き HP 掲載のテキストデータと勝ち上がり表であることを念押しさせていただきたい。

この大会展望執筆においても、私の右腕・山口裕史県協会広報副委員長(矢崎部品(株))には多大な御尽力をいただいた。私自身今年度も報道部の正顧問を拝命しておりなかなかバスケットに関われない状況の中で、私に代わって各地を奔走し情報収集してくれた。感謝の気持ちでいっぱいであるとともに、毎回の大会展望を楽しみに待ってくれる皆様のためにそれらの資料と私が蓄積した情報をベースに今回も大会展望を執筆させていただいた。本来は山口副委員長との共著としなければならないところであるが謙虚な山口氏が私に気を遣って下さったことに感謝の意を表したい。また関係チームの顧問先生方も丁寧に取材に応じて下さったことにもこの場を借りてお礼を申し上げたい。客観的事実の間違えや人名のミス、場合によっては私の主観が混じった表現があるかもしれないがご容赦いただき、執筆の趣旨を理解して観戦のお供にしてもらえればと思う。

昨年も記載したが、私にとってこの大会で例年ウインター県予選プログラムの表紙・裏表紙・そして目次・男女扉絵に載せる選手の人選も楽しみである。今大会の結果を参考資料として 50 名ほどの「静岡県高校バスケの顔」となる選手を選考することになる。昨年はこのプログラムに載った選手たちが年度末の県協会 U18 優秀選手表彰式で一堂に会し、私も写真撮影をしながら「感無量」の一語に尽きる思いをした。今年も多くの方々が目にする大役を任されていることを誇りに思い、いつも以上に重責を感じながら長年の経験で培った「自分の眼」を信じて執筆・選考にあたりたい。

【男子】

今大会も県新人 4 連覇、県内大会 12 連覇、県内連勝も 88 まで伸ばし今年度中に 100 連勝の大台に到達する可能性もある藤枝明誠が県制覇はもちろん東海総体連覇も目指し群を抜く大本命に挙げられる。それを猛追するのが西部・東部予選覇者の浜松開誠館と沼津中央、そして昨年ウインターにも出場した浜松学院興誠、中部総体準優勝の静岡学園、冬の東部新人を制し県新人過去最高の 7 位となった韮山、県新人 4 位の浜松商業も東海総体出場権争いに加わることに必至の熾烈な戦いが予想される。

左上のブロックは、中部総体 20 連覇から一気に県総体 5 連覇、その先には東海総体連覇と全国制覇まで見据え、渡邊聖という全国屈指のクラッチシューターを擁する第 1 シード・藤枝明誠の独壇場になる可能性が高い。そして準々決勝で絶対王者への挑戦権そしてエコパへの出場権を賭けて東部総体 3 位・飛龍と中部 3 位の城南静岡が争う構図が予想される。

県内無双の絶対王者・藤枝明誠は東海新人で中部大第一（愛知）・四日市メリノール学院（三重）という東海の強豪に快勝し、決勝で桜丘（愛知）に惜しくも敗れて連覇は逃したもののその戦いぶりから今年の戦力も全国トップレベルであることを証明した。エビデンスとしては今年から新設されて 3 月に行われた「U18 日清食品リーグ入替戦」、日本一の激戦区・九州勢との厳しい組み合わせとなり私自身も「さすがに昇格は難しいか」と思っていたが戦前の予想を覆し連勝、見事 1 年でのトップリーグ復帰を果たした。トップリーグは秋以降のチーム作りを大きく左右させる重要な大会、その出場権を賭けた 2 試合は藤枝明誠そして静岡県にとっても忘れられない戦いとなった。初戦・宮崎工業の时任祐輔監督は藤枝明誠・金本鷹監督にとって幼少期からの竹馬の友、そして金本博コーチは実の父親、藤枝明誠着任 11 年目にして初めて実現したまさに県をまたいだ指導者版「親子対決」となり、その試合に快勝して「親孝行」「恩返し」を果たした。続く最終戦・福岡第一戦、全国優勝 10 回を誇る筋金入りの強豪相手に残り 30 秒で大逆転、相手の猛攻をしのぎ見事トップリーグ返り咲きを果たした。5 回目にして初めてトップリーグから降格が決まった福岡第一は本県にとっては長年天敵中の天敵で、インハイ・ウインター・トップリーグの三大大会で過去藤枝明誠は 7 戦全敗、県勢に対象を広げても 10 戦全敗、福岡県もう一つの雄・福岡大大濠には過去県勢も何度か勝利を挙げたことがあるが、福岡第一は本県にとって高い壁でありそのチームを破ったことに一層の価値があると思うのは私だけではないはずだ。

一気に全国制覇を狙うこのチームを支えるのはやはり渡邊聖。Bリーグドラフト堂々 1 巡目 2 位（全体 2 位）で指名された赤間賢人（茨城ロボッツ）、そして昨年の野津洸創（早稲田大学）などチームに脈々と受け継がれる「エース」の称号を「真」のエースにすることが出来るか真価を問われる試金石の大会となる。2 月に U18 日本代表のエントリーキャンプにも参加した実績を持つ彼のハイライトは福岡第一戦、相手に先に仕掛けられて苦しい時間帯が重くのしかかるなか、要所で放つシュートが的確に決まり逆に相手を追い詰める展開となった残り 1 分 30 秒で同点となる 3P を決め、さらに残り 30 秒で今度は劇的な 3P となる逆転弾、それもディフェンスとの間合いを瞬時に計算し 3P にするためにステップバック、一步間違えれば間合いを詰められダブルチームで囲まれるまたは飛び込みのブロックショットを浴びる可能性があった中でも天性の勝負勘で度胸良く 3P を放って決めて相手にとどめを刺してクラッチシューターの本領を發揮した場面は静岡県高校バスケットの歴史に新たな 1 ページを刻んだ。さらには入替戦 2 週間後に福岡県北九州市で行われた U18 世代向け 1on1 バスケットボールトーナメント「FANTASISTA」で全国の並み居るバスケット猛者を倒し見事優勝、準決勝では藤河遼（九州共立大学）に鮮やかな逆転勝ち、決勝では

同じく九州共立大・具志堅桜和を最後は得意のブザービートの3Pでノックアウトし23-3で圧勝、バスケット最大の魅力とも言える 1on1 での強さも改めて証明した。大会では真剣勝負の中で随所に豊かなパフォーマンスも見せて観る側の心も驚かした。ジュニア時代からクラッチタイムでの活躍が目覚ましく、相手にとっては分かっているけれども止められない爆発力あるスコアラー、入りだしたら止まらないシュートで見るものを魅了するまさに「ファンタジスタ」、今大会ナンバーワンの注目選手である。

渡邊が外の要ならインサイドの大黒柱は 202cm **アメーエマニュエルチネメソン**。経験を積むたびに高さに頼るプレーから脱却、テクニックやオフボール時の動きにも光るものが見える選手に成長した。留学生にありがちなピック&ロールによる一本調子の攻めではなく、攻守における 1on1 や機動力を生かしたプレーでチームに貢献する。県新人は怪我のため無念の欠場となったがトップリーグ入替戦で復帰しディフェンスリバウンド 11 を稼ぎブレイクによるアウトナンバーを生かす攻めの起点となった。高さを生かしたオフェンスは県内随一だけにこれに防御面でも上積みが見られたことによりまさに「鬼に金棒」と言える。エマニュエル欠場中の穴を埋めたのは 206cm **ンバイモドウ**。ウインター県予選を治療に専念するため欠場した無念を本戦や県新人・東海新人で晴らしながら実戦経験を積み大いに成長、得点よりもリバウンドに着眼点を置いて焦らず堅実に育てていくチームの方針が伝わってくる。中部大第一戦・宮崎工業戦ともにリバウンドは二桁を数えたが、特に 14 リバウンドを決めた桜丘戦では自身初のプレイングタイム 20 分超えを果たしスタミナ面でもエマニュエルとのタイムシェアで十分複数試合乗り切れることを証明、中部総体ではハイピックも見受けられレベルアップを感じた。一線級の留学生が常に万全の状態でもコートに対峙することも各チームには脅威の的となる。そして今回もう 1 人留学生が加わった。静岡県初の南スーダン出身留学生 204cm **ジョンアキームメル**。南スーダンは平成 23 年に隣国のスーダンから分離独立、現在世界で最も新しい国である。藤枝明誠は平成 21 年に中国人留学生を 4 人、平成 30 年・令和元年とマリ人留学生を 3 人同時に抱えたことがあったがその時以来の留学生 3 人体制、今回はエマニュエルがナイジェリア出身、モドウがセネガル出身と県内初の 3 ヶ国が揃う形となった。とはいえ、ルール上留学生の登録数に制限はないがエントリーは 2 人まで、コート上は 1 人まで(**オンザコートワンルール**)となっておりまだ公式戦には出場していないがいずれかはコートに登場してバックアップ以上の活躍が望まれるので、今後留学生起用法も全国制覇に向けての大きな要素となる。

主将・**高平爽太**はタレント揃いの個性派軍団をまとめ上げて牽引するチームの大黒柱、スタッツに残りづらい部分でもきちんとチームに貢献、適切なヘルプポジションやローテーションで相手にドライブのコースを与えない、ディナイでパスコースを消すなど数字に残らない部分での働きが光るプレーヤー、県新人で見せた活躍の再現を今大会でも期待したい。宮崎工業戦で渡邊に次ぐ 3P2 本を含む 12 得点を挙げてゴール下でも貢献しながらも外からの成功確率が低いことをひとしきり悔やんだ**徳田翔太**は静岡学園戦でも活躍、途中出場を果たし左でドリブルをしながら相手の気配を察知しとっさに右手でシュートを打つ美技を見せた。来年のこの大会では最注目選手になっている予感の**福本彩人**も今年に入って得点力がさらにアップし桜丘戦 14 得点、福岡第一戦 10 得点と強豪にも物怖じしないアグレッシブな攻めが魅力、長身 192cm **永田貴陸**は留学生が砦として中に構えるため中盤を任される場面が多く、フリースローライン付近から膝を柔らかかに使って高い位置でリリースするジャンプシュートが異彩を放つ。**山城空楽**はトップリーグ昇格影の MVP としての貢献度は計り知れない。11 得点を挙げた宮崎工業戦同様シックスマンとして起用された福岡第一戦では何とも言えない重苦しい停滞ムードが漂う後半戦で大活躍、3P を含む 10 得点で渡邊の闘志に火をつけて大逆転のシナリオを描いた。静岡学園戦でも途中出場して即座に 3P を決めるなどすぐに試合に順応してフィールザゲーム出来る頼もしい選手である。

森秀野は新チームが稼働したばかりの県新人で 3P・ドライブ・アシスト・リバウンド・ディフェンスすべてに貢献しリードを保ちながらも膠着状態が続く展開で流れを引き寄せる突破口の役割を務める。

県総体大会展望の風物詩・藤枝明誠の新戦力を紹介したい。今年は過去最高と言っても過言ではないスーパールーキーが入部した。RISINGS 徳島で Jr. ウィンター優勝、当時中学 2 年生ながら大会ベスト 5 にも選ばれた潜在能力にあふれる世代トップクラスのオールラウンダー・**平岡泰介**。昨年中学 3 年次に飛び級で U16 日本代表に大抜擢されモンゴルで開催された FIBA U16 アジアカップにも出場、最後の Jr. ウィンターは過去に大先輩の野津や福本も所属したゴッドドア(兵庫)に敗れたものの 190cm の長身を生かしたプレーでスターへの両輪も垣間見せた。上記の 1on1 大会「fantasista」にもエントリーしてベスト 8、月刊バスケットボール誌「今年度の見るべき 100 人」にも武井慶仁(正智深谷)とともに 1 年生ながら取り上げられた逸材、クイックネスと誰も真似できない驚異的な跳躍力を併せ持つ大器、入部直後の交歓大会でもスタメン出場し本来はシューティングガードであるがさらなる進化を目指してポイントガードにも挑戦中の鳴り物入りルーキーを 3 年間静岡県のコートで見られることに感謝したい。中部総体では出場機会はなかったが、県総体で初登場を心待ちにしたい。また Jr. ウィンターベスト 8・琉球ゴールデンキングス U15(沖縄)からは**仲松優**と**砂川恵汰**が入り早速中部総体決勝でデビュー、**東翠人**は中学生ながら広島県選抜選手に選ばれ滋賀国スポに出場、こちらも今回静岡県初お披露目を果たした。どのチームも同じであるが目標はあくまで全国制覇、その過程で白星を重ねながら県総体・東海総体でも優勝し、全国総体も制して男子初の全国制覇、そして静岡県初の「ウィンター出場校 3 枠」の大いなる夢を、ドリームズカムトゥルー、実現させて欲しい。

県新人で上位シードの城南静岡相手に鮮やかな逆転勝ちを飾り 8 位入賞した**飛龍**は東部総体準決勝で沼津中央に敗れたものの富士宮東に競り勝ち 3 位で県総体開幕を迎える。県総体優勝 14 回・全国総体出場 18 回を数える伝統校も昨年はまさかの 1 回戦負け、指導者・選手ともにその悔しさを胸に刻んでウィンター予選は県 16 強、県新人は 8 位まで這い上がり今回は県新人以上の成績を目指す。

以前は県外選手ばかりが揃う布陣だったが、近年は県内出身選手を中心にチームを編成している。エース・**植木鳳雅**は飛龍に脈々と受け継がれる「アウトサイドの魔術師」、特に伊豆中央戦での連発はまさに圧巻であった。1 学年上の人数が少なかった影響で昨年来中心選手として出場し仲間からの人望も厚い。インサイドの 182cm **内田瑛悟**は富士宮東戦・第 3Q 途中でベンチに退くまでに驚異の 25 得点を挙げたスコアラー、この選手をいかに止めるか相手チームは悩ましい所である。その他にも、司令塔の**清水獅王**・**市川敦基**、中盤には**鈴木悠**、インサイドには新入生ながら沼津中央戦で留学生にマッチアップして及第点を与えられた**大崎匠**などの戦力で県新人 2 回戦・2 点差で辛勝した城南静岡を振り返り討ち無敵の王者に挑みたい。大一番の直前、大会初戦では西部 9 位・浜松湖南と対戦するがこの試合の相手も飛龍にとっては決して侮れない。

浜松湖南は県新人ベスト 16 の強豪、西部総体では浜名に不覚をとったものの選手一人一人が得意なプレーを前面に出し、各々の役割を遂行することでチーム力を上げていくチーム、大型選手が多いのも特色で、178cm **関根悠輝**は状況把握能力に長けてゴール下まで突破するのかミドルで打つのかとっさの判断でチョイス出来る。181cm **大石樹生**は抜群のセンスを感じさせる精錬されたテクニックでうまく相手をかかわすオフェンシブな選手、最高身 183cm **清水敦稀**のインサイドプレーによってチームにさらなる安定感が生まれる。そして外周りには**杉田竜哉**という荒削りながらも持ち前の瞬発力とフィジカルで 1on1 を突破出来る選手を擁す。葦山ー島田工業戦同様、

県新人ベスト 8 と県新人ベスト 16 が初戦で相まみえる「飛龍－浜松湖南」の一戦を 1 回戦最注目カードに挙げたい。

城南静岡は中部新人準優勝チームとして臨んだ県新人で飛龍に惜敗、2 年ぶりに県 8 強入りを逃した。しくじたる思いで挑んだ中部総体は静岡学園に敗れたものの静岡東に完勝し 3 位、今回第 9 シードとして飛龍との再戦に全力を注ぐ。今年度から新指揮官に**多々良哲久**監督が就任、高校時代に焼津中央で**立野幹夫**(駿河総合高校女子監督)の手厚い指導を受け、全国出場 3 回の輝かしい実績を持つ恩師の帝王学を学ぶべく大学入学後も母校のコーチとして師事、その後公立中学校やベルテックス静岡ユースでの指導をへて今回満を持して高校バスケの舞台に指導者として帰還した。私もコーチ時代から懇意にしてもらっているが戦術の引き出しが多い理論派、そして「なぜ今そのプレーなのか」「相手はその時どのような気持ちでどう動くのか」を理詰めに選手に諭し、自身でも実践してみて、体得した選手を褒める指導を行う印象が残る。まさに現代版・山本五十六、「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、褒めてやらねば、人は動かじ」を地でいく指導者、もちろん理論は昔ながらのものでは全くなく、現在日本や世界で主流になっているタイムリーな戦術や展開を積極的に取り入れる采配と指導が特徴、中部総体では根拠に基づく戦術をベースにしながら選手にある程度の裁量権を委ね、長所を生かすプレーを最大限に活用していくバスケが目についた。

エースとなるのは去年の県総体でセンセーショナルなデビューを飾り、現在ストリートバスケの方面でも活躍する兄・市川昊(小糸製作所)の DNA を受け継ぎながらも自分なりの特色を十分にを見せて将来性を十分に感じさせた**市川天道**。ディフェンスを中に引き付けて早めに打つフローターシュートは健在、内外だけではなくミドルも吸い込まれるようにリングイン、静岡東戦で見せた**宮城島瑛斗**のループパスをアリウープで決めたシーンは衝撃的、その試合 3P5 本を含む 35 得点、いやはや「鳥人(ちょうじん)」である。その他にも、抜群の瞬発力を持つ**安藤大樹**や数字に表れないイフィージェンシー(貢献度)が高い**小澤友宝**、インサイドで辛抱強く勝負する**鈴木遊渚**、秀でたパスセンスでチャンスを広げる**影山奨真**、トランジションゲームに本領を発揮する**木村零月**のメンバーでオールアウト主体のバスケットで、サイズで勝る相手にも根拠に基づいた強気のプレーで常にコートを走り続け、飛龍にリベンジを果たし藤枝明誠への挑戦権を得たい。

西部は最終日の試合開始時間が他地区よりも 30 分遅かったため女子の浜松日体に続き、男女通じて実質的に最後の 1 枚となる 64 枚目の県総体切符を手にしたのが**磐田南**。県新人に初出場した浜松啓陽を破り 7 年ぶりの県総体出場を決めた。相手も県総体初出場を狙い気合十分で臨んだ序盤早々にペースを握りキャプテン・**平川蒼大**の得点で突き放すが、負ければ夢が水泡に帰す必死の相手に中盤逆転を許し以後一進一退の攻防を繰り返しながら終盤に平川・**伊池千宙**・**鈴木舜平**や途中出場の**永井陽大**が得点を重ね、相手もエースがファウルアウトとなるなどして万事休す、鮮やかな逆転劇で最終切符を掴んだ。悲願の県総体、相手は藤枝明誠、完全燃焼するつもりで王者に挑んで欲しい。

その他の注目選手として、**杉山瑞瑠**・**富永悠生**・**遠藤修都**・**佐藤輝**・**中村心汰朗**(飛龍)、**須貝頼勇**・**中島将之介**・**端野恵音**・**濱崎煌大**・**関口凜太郎**・**矢野裕太**(藤枝明誠)、**山田侑享**・**中山瑛仁**・**久保山友羽**・**青山大悟**(城南静岡)、**平島大瑚**・**三上晃輝**・**小田紘也**・**齊藤千隼**・**丸林諒太郎**・**川寄理一**・**石野祐心**・**諏佐悠斗**・**齊藤航太**(静岡城北)、**宮崎基貴**・**若松佑樹**・**鈴木健吾**(浜松湖南)、**鈴木貴斗**・**今福悠人**・**中村琉泉**・**後藤礼哉**・**長谷川泰一**・**白木陽太**・**勝又慎太郎**(三島北)、**芽野一真**・**尾上楓**・**青島颯良**(磐田南)、**加藤泰史**・**井瀧陽斗**・**広瀬逞斗**・**高田遥生**・**吉澤直輝**・

伊藤優誠・佐藤奏・庄司敬楽(伊豆中央)などを挙げたい。

左下のブロックは男女とも毎年恒例最激熱のブロック、今回も順調に勝ち上がれば県新人 4 位の浜松商業と県新人 5 位の沼津中央が準々決勝で対戦する。しばらく直接対決がなかった両雄、公立高校としてそして自校にとっても 14 年ぶりとなる東海総体出場を目指す浜松商業と、今年は今まで新人戦で韮山と藤枝明誠に敗れた 2 敗のみの勢いそのまま東部総体を制し今大会に臨む沼津中央の戦いは準々決勝最大の目玉となる。

西部総体 3 位の**浜松商業**は西部総体では準決勝で浜松開誠館に敗れたものの、西部新人準決勝に続き同地区公立のライバル・浜松西を 21 点差で破り 3 位・第 4 シードで 14 年ぶりの東海総体出場を狙う。中部新人覇者の静岡学園を接戦の末破り 22 年ぶりに 4 強入りした県新人では東海出場を目指したが、主力選手のインフル禍にも苦しめられ私学勢の壁を打ち破れなかった。その悔しさをバネに今回は東海総体出場を最低目標に掲げて第 4 シードで大会に臨む。就任 2 年目・**本間光一**監督が掲げる奥の深いバスケットがチームに浸透、その指導法に心酔する選手も多く、まさに「本間イズム」が成せる業である。

今年は今例年浜松商業に見られる外から打てるエースを中心としたバスケットではなく、どの選手も個人の技を武器にそれらを有機的に機能させ攻守に結び付けて全員で勝利を引き寄せるバスケットが目立つ。コートを目一杯広く有効的に活用、常にボールを動かしながらスペースにプレイヤーを飛び込ませてフリーをバスケが特徴、その中でも中学時代全国を経験したキャリアを持つ**伊藤来晟**のトランジション対応のうまさには脱帽するしかない。優秀なガード陣が揃う中でも抜群のパスセンスを持ち、困った時には自らがフィニッシャーとなり、ポイントガードとして極めて高い実力を持つ。県新人決勝リーグ 3 試合でも強豪相手に 44 得点、西部総体でも味方がリバウンドを取れるか否かを秀でた嗅覚で素早く察知し縦のラインでまっしぐらに走りレイアップを決めるファインプレーが多く見られた。もちろん伊藤のターゲットハンド内にきちんと収めるリバウンダー・185cm **中山雄陽**や 180cm **辻村未来**の「針の糸をも通す」絶妙なロングリードパスも褒めなくてはならない。二人ともディフェンスの動きをよく見ていて、相手の虚を突いた途端にフリーになる動きに優れ、ガード陣もそれに呼応してパスを繰り返す。特に 1 年次から主力としてシビアな場面を多く潜り抜けた中山の経験値は今大会でもチームの頼りどころ、サイズを生かしたタックルシュートも得意、相手にそれを阻む時間を与える間もなく加点する。この選手であれば留学生相手にも 20cm 以上の身長差をテクニックで補完しミスマッチにならずに勝負を真っ向から挑めるはずだ。他にも、キャプテンとして指導者と選手の潤滑油の役割を果たしながら責任感から率先して得点に絡む**坪井達真**、東海新人を賭けた浜松学院興誠戦で 3P7 本を含む 29 得点、アウトサイドの神様が乗り移ったかのようにディープスリーまで決めた**松田悠杜**、県新人・藤枝明誠戦でチーム最多タイの 14 得点を挙げ 3P も 3 本決めた**荒巻俊介**、中盤を任せられゲームメイクも担い、インサイドのポジション取りが巧みでベストポジションでボールを受けられる**山本源太**、そして浜松与進中学校時代に東海 2 位で全中出場を果たしたルーキー・**石原由輝斗**と**山下大成**などのメンバーで、大会上位シードの立場で東部王者の挑戦を受ける。もちろんいつでも挑戦者という謙虚な気持ちは絶対に忘れず戦いに臨み、東海総体出場権を掴み取る。

沼津中央は東部新人で敗れた韮山に県新人でリベンジ、早くも今年 3 度目の決着戦となった東部総体決勝では相手のお家芸である長距離砲に苦しめられる一幕もあったが中盤一気呵成に攻め尽くし県新人では 4 点差で辛くも勝利したライバルから点差を 15 点に広げて勝利を挙げ、2 年連続東部総体王者として県総体に挑み、2 年ぶりの東海総体出場を目指す。

中心となるのは県内最高身長 207cm ナイジェリア人留学生・ハビブアテイザカリファ。1 年次から経験を重ねて集大成となる最後の年、ハングリーさが前面に表れて県新人ではいままで積極性に欠けていたインサイドでの位置取り争いに強さと破壊力が生まれ、さらに以前は接触を嫌がる傾向にあったがそれも改善されてエマニュエルやクリスティーンそして後藤と対等に渡り合えるプレーヤーに成長した。県新人 5 位決定・静岡学園戦では 14 得点、ミスマッチ気味になるディフェンス相手に圧倒的な優位性を誇示した。今回も高さで浜松商業を圧倒し、準決勝でエマニュエルやモドウとのマッチアップを見てみたい。主将・渡辺碧波は昨年も要所で途中投入されいぶし銀の職人プレーを随所に見せていたプレーヤー、静岡学園戦でもチーム最多の 17 得点、特に最終盤には 14 連続得点を挙げる八面六臂の大活躍をして、1 月に行われた初の B リーグドラフトにおいて 1 巡目 3 位(全体 3 位)で指名された先輩の新井楽人(横浜 BC)を彷彿させるポイントゲッターとしての役割を見せた。東部総体・韮山戦でも相手のお株を奪う 3P4 本 29 得点を奪う大活躍を見せた。加速が半端ではない圧倒的なスピードでディフェンスに後塵を拝させてドライブに持ち込むワンマン速攻も魅力、チームも彼がアイソレーションを仕掛けられるよう意識的に逆サイドに寄るシーンも多い。「目標は常に優勝」と言い切る姿勢がプレーにも前面に出てきたことは喜ばしい限りである。

森田悠月は昨年滋賀国スポにも出場したこの世代を代表する選手、昨秋新チームになるとすぐにスターティングラインナップに名を連ねた逸材である。3P やドライブなど見どころ多い選手だが、私はフィニッシャーにならないことがこの選手最大の特徴と理解する。ボックスアウトを徹底する、パスを裁く、キックアウトをシュートではなくエキストラパスでつなぐ、もちろん自分で勝負すべき所は勝負を挑む、勝利のためだけに身を捧げられる選手と言える。郷大輝は先年来指揮官に大切な場面で起用されて貴重な経験を積みレギュラーを奪取、巧みなステップで相手を幻惑させる。チーム日本人最長 182cm 本袋大樹は先の韮山戦カリファに代わりスタメン出場、長丁場の大会では必ずインサイドを休ませなければならない時が来るだけに彼の成長は頼もしい限りである。その他にも、東部決勝で先発出場した植松唯斗、シュート力に磨きがかかり先を見越した頭脳プレーでも支える諏訪部碧生、スピードに自信を持つ長山惺などの戦力で、公式戦では相手の二大エース・宮本剛斗と臼井力兜をトライアングルツウで封じ勝利を挙げた令和 6 年ウインター予選準々決勝以来の浜松商業戦に勝ち、目標の東海総体に近づきたい。

男子には初出場校が 2 校誕生した。初出場と言っても共に今年の新入生で一足早く「県大会出場」の悲願を達成していて、その勢いそのままに一番歴史の長いこの大会で両校とも「県総体初出場」の大願成就を遂げた。中部 10 位・島田樟誠は中部新人も 10 位だったが、その時は藤枝明誠が予選免除であったため実質的な順位を 1 つ上げての初出場となる。男子校としてスタートし昭和 52 年創部、平成 22 年に島田学園から校名変更、平成 30 年に男女共学化、令和 7 年から女子バスケット部も合同チームとして公式戦に出場している。令和 5 年に県総体まであと 1 勝に迫ったが切符を掴めず、3 年かけて今回連休前に早々県総体初出場を決めた。今年の特徴はほとんどの試合がクロスゲームにもつれこむこと、もちろん勝ち負けは相手があることで接戦を勝ち抜いた試合も落とした試合もあったが、戦うたびに選手たちがモチベーションを高め、試合への想いが強くなって心身共に成長し、総合力がアップしていることである。敗色濃厚な状況になっても絶対に諦めず戦術としてファウルゲームを試みて相手がフリースローを外すのを待ちブレイクを狙って勝利への情熱を見せる。以前は特定の選手だけに頼ることが多かったが、層を厚くすることを主眼とし、1on1 やリバウンドの強化や戦術におけるチームルールの確認を徹底して行ったことが連続しての県大会出場につながったと見る。

焼津市選抜選手としてモンゴル遠征にも参加し、バスケットに真摯に向き合う姿勢が好感を呼ぶデ

イフェンダー・芹澤陽向を始め、得意のディフェンスでリズムを生み出しクラッチタイムでシュートを決める努力家・杉山大河、スタッツに表れにくい黒子のプレーでひたむきに勝利に貢献する酒井優作、長身を生かしたインサイドプレーで相手を幻惑させる 183cm 谷村蒼空・182cm 清水政虎、司令塔・野田陽斗、驚異の身体能力で相手をきりきり舞いさせリングに向かう岡村匡悟、相手ガードに対してバックコートから執拗にプレッシャーをかけスティールを狙い簡単にはボールキャリアさせない池田麗、そしてすでにスタメンも任され広いシュートエリアから果敢に放つ期待のルーキー・清水鳳雅などの面々で、「敵は己にあり」の姿勢を徹底し、勝負所は相手も同様に苦しいのだから我慢を続けて必ず勝利を掴み取る粘り強いバスケットで県総体の初陣に臨む。

その他の注目選手として、平林春人・井原大智・長嶋壮(沼津中央), 安藤悠翔・太田一平・曾根田澄真・塩崎虎次朗・森脩優那・溝口穰治・磯部歩夢・中村朋貴・梶山暖琥(静岡東), 和田悠慎・久野綾大・吉田和馬・平塚大輝(浜松商業), 土屋悠・海瀬太希・仲澤猛・塩崎蓮貴・新坂佑月・勝又琉光・谷村尚澄(加藤学園), 加藤輝己・赤堀慎・松浦響太郎・池田陽・青木蒼甫・小野寺大・新名朔也・西山央甫(常葉大菊川), 佐藤愛琉・羽根田暖真・佐野匠・鴨川琉空・吉原輝・猪股温矢(浜北西), 新堀瑛翔・竹田俊太郎・天野翔士朗・尾嶋奏亮・鈴木康介・守山凜・櫻井壮真・河部侑樹・坪井和暉(浜松北)などを挙げたい。

右上のブロックは年末のウインターにも出場、県新人 3 位で東海新人にも出場した浜松学院興誠と県新人 6 位の静岡学園を中心とした争いで、最終的に両校が直接対決する可能性が高い。両者は昨年 11 月にウインター予選決勝リーグ最終戦で実現、静岡学園も大勝すれば全国出場の芽もあったが浜松学院興誠が力でねじ伏せて全国を決めた好カードが県総体準々決勝で再現することになる。ただ浜松学院興誠は昨年ここで静岡商業に公立高校の意地を見せられ煮え湯を飲まされた経験を味わった。連続してエコパ前で不覚を取る訳にはいかず、ここを「鬼門」と解釈し万難を排して臨むだろうが、十分上積みがなされた成長著しい面々で臨む静岡学園もここを突破し 2 年連続の東海総体出場へ弾みをつけたいところである。

浜松学院興誠は準々決勝で予想される静岡学園との対戦を乗り切って、西部総体決勝で敗れた永遠のライバル・浜松開誠館との準決勝に勝負を賭けたい。西部総体決勝では勝敗に関わらず県総体準決勝の再戦が見えていたこともあり、お互い相手の出方や 3 週間後の絵図も考えながらの戦いとなった。そんな中でも浜松開誠館に敗れたことは事実であり、まずは静岡学園戦に勝利を収め、同地区のライバルも下して 3 年ぶりの東海総体出場を決めて、最終的には 28 年ぶりの優勝と 9 年ぶりの全国総体出場を目指したい。西部総体では強力なインサイド勢がゴール下を支配、特にディフェンスにおいては、相手がインサイドで放ったシュートをことごとくブロック、オフェンスはチームとしてペイントエリアを主戦場としつつ、アウトサイドからも虎視眈々と狙うバスケットが見られた。

中心となるのは唯一ウインターでのスターティングファイブを経験している 2 年生・ナイジェリアからの留学生で 206cm オビオラチデンドゥクリスティーン。見るたびに逞しくなっているその身体は肉体改造に成功、これ以上体重を増やして機動力という持ち味をなくさないようきちんとコントロールされている感がある。ウインターや東海新人で見せた後ろからの背面ブロックショットはすでに驚愕の域、高山西(岐阜)戦では相手留学生を沈黙させる 19 リバウンド、まだ高校生活 2 年間を残してとてつもない留学生に成長したというのが正直な感想である。ゴール下で陣取るだけで相手にとっては脅威、パスも的確にさばけるようになった。そして今回新入生として留学生がもう 1 人加わった。ナイジェリア出身の 200cm オラデジサミュエルオパイェミ、

長いウイングスパンを利したプレーを得意としクリスティーンを休ませたり戦術の確認をしたりする時に時間をつなぐ役割を任せられるのは大きい。

キャプテン就任後ますます自覚が芽生え、小柄をものともせずスピードでディフェンスを突破するプレースタイルが板に付いてきた**川原暖**は県新人で3位確保に尽力しただけでなく高山西戦でチーム最多の17得点、ウインターにも出場経験がある強豪相手にひるむことなく立ち向かい、鍛えられたフィジカルとスピードを生かし、ディフェンスとのスペースを作ってシュートチャンスをも生み出した。ウインターの檜舞台で怪我からの再起を飾り、日本人では後藤に次ぐ長身194cmを生かしたペイントエリアでの攻防で真価を発揮する**菌部良介**は高山西戦で13得点15リバウンドのダブルダブルを達成、特に相手留学生がセカンドシュートを狙うところで長いリーチと優れたジャンプ力を生かして記録したディフェンスリバウンド9は数字以上の価値を持つ。彼が長身センター陣の一翼を担うことでハイローなどオフェンスにも幅が出てペイントエリア内の攻防が一段と強化されている。県新人で新チームを見ていた中で、どの試合でも必ずラッキーボーイとも言えるべき爆発的に得点を重ねる選手が出てきたことが印象に残ったが、浜松開誠館戦では**工藤楓**が12得点、藤枝明誠戦では**大山流輝**が3P4本を含む25得点、東海出場を決めた乱打戦・浜松商業との一戦では**長谷川雄哉**が3P5本を含む驚異の35得点、相手の守りが中に集中する瞬間に外へパスを出す合わせも多用し大量得点に導く攻撃的なスタイルが目についた。もちろん伝統の徹底したハードなディフェンスも健在、そこからリズムを作って攻撃につなげることは言うまでもない。切れ味があるドライブの183cmフォワード・**高田蓮土**やディフェンスをプレーの生命線とする**市川陽太**もチームの躍進に不可欠な戦力である。

新戦力として、2人の新入生が中部総体でもスタメンを飾った。**佐々木真旺**は宇都宮ブレックスU15(栃木)キャプテンとしてJr.ウインターにも出場、試合中ディフェンスの位置をよく観察し、相手の隙を突いてスペースにカットインしていくプレーが光る。**井上薫**は京都精華学園で全中3位・Jr.ウインター優勝を果たし、大会でも球際の泥臭いプレーでチームを支えた縁の下の力持ちである。その他にも、沖縄北谷中学校で全中ベスト8に入り、広い視野から絶妙なパスを繰り出し速攻の起点となった**古波蔵凜人**や佐々木と共に全国の舞台に立った**赤羽栄太郎**など補強にも余念がない。準々決勝で予想される静岡学園との試合を制し、西部総体決勝の再現となる浜松開誠館戦で借りを返してまずは東海総体を手中に収めたい。

静岡学園は中部新人王者として臨んだ県新人ブロック決勝で浜松商業に不覚を取り東海新人も逃して6位に終わった。昨年同様中部2位で臨む今大会、昨年手にした東海総体出場に向けてまずはひとつずつ勝ち進み、浜松学院興誠との準々決勝を制して「捲土重来」、ウインター予選のリベンジを果たしたい。主力がごっそり抜けて新チームが始動して約半年、多くの強化試合で試したチェンジングディフェンスを使ってボールを奪いブレイクにつながる堅守速攻のバスケットで2年連続の東海総体出場を目指す。

中心となるのは昨年来大切な場面で指揮官に効果的に起用され修羅場も経験、キャリアを積み重ねてきた石井と細澤。**石井蓮音**は昨年来出場機会が多く、鍛え抜かれた突破力で縦への突進が持ち味のドリブラー、相手のダブルチームをかわしてのカッティングは絶品、ディフェンスの嗅覚にも優れて先見の眼を持つ選手、プレーに安定感があり安心して任せられる選手である。**細澤慧太郎**のハイライトはウインター予選・浜松開誠館戦でのスタメン抜擢、勝てば全国に王手を掛ける大切な試合での起用は**近野修**監督がこの選手に託す思いや願いが凝縮された場面であった。187cmという恵まれた体格に広い肩幅、安定感ある下半身、鍛え抜かれた脚力、そして窮地でも雰囲気停滞させないポジティブな性格に、願わくは「さらに貪欲なプレー姿勢」が身につけば石井と共に偉大な先輩たちのレベルにグッと近づけると思うのは私だけではないだろう。藤枝明

誠戦でも交代で出てくる留学生とド迫力マッチアップを見せ、一回り以上身体の大きい選手相手にひるむ様子も見せず堂々と渡り合い、ルーズボールの奪い合いでもレフェリーのホイッスルが鳴るまでヘルドボールを奪い合う強気の姿勢を見せた。交代でベンチに下がる時に監督から、強気でボールを奪いきってシュートに持ち込むよう指導を受けたあと、頭(こうべ)を垂れながら頭の中で助言の論点を整理してすぐに次の出番に備える姿に大きな成長の跡が見えた。

鈴木麻也は東海国スポ県選抜選手にも選ばれた大器、秋口から冬場にかけて体調不良で出場機会を減らす場面があったが中部総体では完全復調、留学生をも抑えきる脚を絡めた鉄壁のディフェンスを多くの方々に見ていただきたい。その他にも、相手に密着されても遠い方の腕でシュートを打つなど頭脳プレーが目立ち、柔らかな膝と手首のスナップを効かせたフリースローが高確率で決まる**清久春樹**、司令塔として低い重心のままボールを運び、レグスルーやロッカーモーションなど巧みなテクニックで相手をかまし、インサイドからキックアウトできればショートコーナーから吸い込まれるようなシュートを決める**中澤和雅**、まだまだ線は細いが当たり負けしない体幹で相手がバックホールディング気味のディフェンスを仕掛けても振り払ってボールを受ける技術を持つ**益山凱音**、190cm という類まれな身長を生かしてハイ&ローを事も無げに決められるようになった2年生・**永田史晏**、そして努力を惜しまず日々進化を遂げる雑草軍団と指導者との潤滑油になってコミュニケーションを取ってまとめ上げるキャプテン・**水上陽向**や、年始のJr. ウィンターにもクラブチームULTIMATESの一員として出場し昨年度県協会U15優秀選手にも選ばれた**泉地龍空**・**大畑琥太郎**・**益山大兜**や中部総体決勝で途中出場し前途有望なプレーを見せて才能の片鱗をうかがわせた**油井健斗**などの新入生も含めた面々が、愚直なほど粘りのディフェンスで相手の良さを抑え込みブレイクで勝負するバスケットで山場となる浜松学院興誠戦に勝利を収め、2年連続の東海総体出場に王手をかけたい。

静岡は中部総体決勝トーナメント2回戦で中部新人4位・島田工業をダブルスコア近く引き離し早々に2年ぶりの県総体出場を決め、今回中部7位で大会に臨む。昨年は中部総体9決1回戦で藤枝東に4点差で惜敗、増田脩人という絶対的なエースを擁しながらも4年ぶりに県総体を逃した。中部新人も10枠しかない県切符に惜しくも届かず11位、背水の陣で臨んだ今大会は静岡北・島田工業を連破して一気に県切符を手にした。中部予選では圧倒的な攻撃力に加えて好調をキープするスパンが長く、このチームの辞書には「不調」の2文字が見当たらないのではと思わせる試合が続いた。選手層も厚くツープラトンが組める攻撃は各選手の能力が遜色ない証明、チェンジングディフェンスも多岐にわたり披露し対戦相手には厄介なチームに映るはずだ。

昨夏の焼津市選抜モンゴル遠征でも主将を務め、ウランバートルの空高くに得意の3Pによる華麗な弧を描かせた**中上智仁**を中心に、巧みなハンドリングでインテンシブなゴールアタックを見せる**川原真三**、長いリーチを生かしてリバウンドをタップで自軍に落とす**齋藤一翔**、そしてインサイドの砦として接触に対しても積極的な姿勢が見られるようになり強豪チームのインサイドとも見劣りしないゴール下で勝利に貢献する186cm**奥田彬人**などのメンバーで8年ぶりの県総体勝利を目指す。

西部8位・**浜名**は決勝トーナメント2回戦で西部新人4位・県新人ベスト16の浜松湖南を破り5年ぶりの県総体出場を決めた。最終盤相手の猛追を受け指揮官も選手も残り1分が1時間にも2時間にも感じられたに違いないが4点差で凌ぎ切って歓喜に沸き、7位決定・常葉大菊川戦もオーバータイムにもつれて両軍とも100得点を超える大激戦で敗れたものの強豪と渡り合える力が付いてきた。冬の西部新人では11位まで躍進するも県切符は10枚、その時の悔し涙を3ヶ月の精進で感涙に変えたことに心から拍手を送りたい。就任5年目の**松下温**監督は相手への分

析力に長け、熱心に映像やデータを駆使・研究し相手の弱点や自軍が付け入る隙を見つけるのがうまいまさに「策士」である。高体連西部広報委員長をお願いしているご縁から3月末に練習試合で胸を借りてチームを見させてもらったが、徹底した研究と明快な根拠に基づく戦術で選手の心を掌握し、選手も指導者を心から信頼して目標に向かい厳しく激しくぶつかる姿を見て県総体出場を確信した覚えがある。堅守速攻をチームスローガンに掲げ、県新人に出られなかった悔しさを糧に県外や他地区にも積極的に遠征し精進を重ね、速攻・アーリー・セットと流れるような一連のオフェンスを武器に持ち味を出し切って展開することが特色、「すべてが挑戦」という初心を忘れないプレーを続け、現状に満足せず県総体1勝を目標に大会に挑む。

柳澤侑我は中学時フォワードが専門だったが高校入学を機にガードとして試合に絡み、さまざまな経験を経て一段とたくましくなった。強靱なフィジカルで力強いドライブを武器としオフェンスの流れをつくり心身ともにチームの要である。**野末修生**はジャンプ力と純粋にバスケットに向かうマインドが素晴らしいパワーフォワード、何度でも執拗にリバウンドに向かい、ドライブ突破や速攻時の起点となる選手、柳澤との役割分担がきちんと出来ているところも躍進の秘訣なのかもしれない。**永見航太郎**は冷静な判断力と3P、合わせが持ち味のシューティングガード、ポジションを考えれば172cmは長身の部類にカテゴライズされ、チームが求める多くのタスクをこなせる万能選手である。その他にも持ち前の体格を生かし度胸満点の3Pやポストプレーとアウトシュートのバランスを見て試合の流れを変える**久保依里守**、冷静な判断力でのダイブやキックアウトの合わせが抜群のシューティングガードで試合の流れをくみ取り突破口を開く動きをする**鈴木寛大**、冷静な判断力と広い視野を生かし、仲間に適切なタイミングでパスを出すことができるガードで粘り強いディフェンスも持ち味で相手を追い込む**宮嶋理斗**、粘り強くポストを占有するインサイドで相手を抑えるだけでなくリバウンドに果敢に取り組みチームのオフェンスを安定させる**山内颯**、そしてシックスマンとして縁の下を支え、自慢の走力とシュート力を武器にミドルシュートの成功率はチーム随一の**曾根春馬**などのメンバーで県勝利を目指し大会に臨む。

東部9位・**誠恵**も県新人初出場に続き今回県総体初出場を果たした。平成11年に沼津北から校名変更、4年前に中田舜(常葉大学)という193cmの長身選手を擁して以来チーム力の基盤が強固になり今年県新人初出場、東部6勝のプライドを前面に出して真っ向から浜松開誠館に立ち向かった。私も春休みに練習試合で胸を借りたが選手層が厚く、低い姿勢から執拗にプレッシャーをかけ続け相手に攻撃の糸口を簡単に見つけさせない姿勢に公式戦で白星を積み重ね続けた効果が目に見えて映ってきた。更なる飛躍を目指し40分間「ハードワーク」を維持できるよう、個々の弱点を冷静に分析し一人一人が自覚を持って練習に取り組み、必要があればワークアウトにも時間を確保し総合力向上に努めたと聞く。県総体を狙うライバルチームに「追われる」立場になった今回、すでに東部総体3勝を挙げていた下田に大苦戦、負ければ敗者復活すらない戦いでオーバータイムに持ち込み辛くも1点差で勝利、疲れが抜け切れない直後の松崎戦も気力で制し、県切符を手に入れた。目標とする東部ベスト8以上の壁を破れなかった自分たちの未熟さを痛感しながらも、新人戦・総体合わせて10勝3敗という東部2位・**葦山**と全く同じ立派な戦績を自信と武器に初の県総体の舞台に立つ。

どのポジションも器用にこなし常にチームを冷静に分析して足りない不部分を補完する役割を担い、下田戦でも同点に追いつく「奇跡の3P」を含む12得点を記録し逆転の狼煙(のろし)をあげた主将・**望月智嗣**を中心に、エースとしての自覚が生まれて一線目で体を張ってのディフェンスに磨きがかかりゲームの分岐点では必ず得点を決め下田戦でも逆転のフリースローを2本落ち着いて決めた**ヴィリアジャンイワゾ**、ディフェンスやリバウンドなど泥臭いプレーで勝利

を呼び寄せる杉原凜遠、激しいディフェンスからのスピードあるブレイクや高確率のミドルジャンパーを武器にする土屋懸、悪い流れを断ち切るために機転を利かせて早めの勝負に出る頭脳派・村上頼、そして望月同様チーム最高身長 177cm でゴール下を支え、実戦経験を重ねてシュートエリアが広くなり次第に得点も増えるようになったサブランシャンに加えて新戦力の上田來雅・麻場瑛人などの戦力で、どんな相手でも誠恵らしくヘルネトレーションを遂行するバスケットで難敵・静岡学園に立ち向かう。

中部 11 位・常葉大橋は中部総体で 3 敗したものの、科学技術・東海大静岡翔洋という県新人出場チームを連破し 4 年ぶりの県総体出場を決めたが、その決定の瞬間、指導者も選手も喜びひとしおという感じであった。それもそのはず、4 年前の中部総体ではコロナ禍での開催となり、相手チーム棄権による不戦勝により戦わずして県総体初出場が決まった。それでも中部 7 位を勝ち取った事実は全く色あせるものではないが、チーム全体が「自力による県総体出場決定」を強く意識し念願叶って正真正銘の自力出場を果たした。私も県を賭けた東海大静岡翔洋戦を 1 試合通して見ていたが、緊張と気負いの中にもみなぎる闘志が前面に出ていて「一丸による勝利への飽くなき執念」で勝ち取った県切符と言える。またスティール数の多さも目に付き、相手へのゾーンアタックも緻密に練られた守備面におけるクオリティーの高さも印象に残った。

昨年から試合経験を積んだ 3 年生を柱に、「堅守速攻」を展開、キャプテンとしてチームをまとめ守備の要としてチームに貢献し冷静な判断力と体を張るプレーでチームに勝利の流れを呼び込む岩崎翔を中心に、東海大翔洋戦勝利の立役者・狙いすましたスティールでのワンマン速攻や最後に決めたブザービート 3P が印象的で攻守のバランスが取れたプレーで試合中もコート内で仲間を鼓舞し試合のストーリーをも作れる頼れるエースガード・大久保征哉、まさしく点取り屋の異名にふさわしく静岡北戦や科学技術戦でも得点を量産しコンタクトでも体負けせずゴールに果敢にゴールに突進、入ったら止まらない 3P も魅力の特攻隊長・三浦和希、そして入学時から主力として攻守ともに汗をかきチームを支え、ルーズボールやリバウンドなど地味な仕事をコツコツと行い苦しい時に先輩を支えてチームを救い、翔洋戦ではラッキーボーイ的な活躍を見せた 2 年生・岩崎来成などのプレーを見ていると、練習中から常にコミュニケーションを大切にし、練習での努力は裏切らないと固く信じながら常に試合をイメージして練習している様子が容易に想像できる。非常に厳しい組み合わせではあるが、現状に満足することなく県勝利を目標に掲げて大会に挑む。

その他の注目選手として、中原輝海・杉山優生(静岡学園)、石川幸聖・高橋嵩・齊藤功太・宇津朗・鈴木海世・鵜飼優槻・岡田陽翔・中野真汰・栗田翼・後藤大佑・小田隼也(日大三島)、望月虹晴・高田颯馬・荒木悠斗・佐野一颯・大槻瑛太・杉澤陽向・小林暁大・望月優太・四條充希(富士宮東)、遠藤颯真・眞田輝希・丸山恵叶・中島彼方・轟谷大智(常葉大橋)、宮内結人・吉松優成・瀧秀斗・黒岩晴・横山唯太(静岡)などを挙げたい。

右下のブロックは、初の県総体優勝・全国総体出場を狙う浜松開誠館と、42 年ぶりに東部新人を制して県新人も過去最高の 7 位で終えた公立の雄・韮山を中心とした争いが予想され、両雄による戦いが準々決勝で予想される。浜松開誠館は東海常連の県勢としては唯一の純国産チーム、県制覇に向けて「静岡県の至宝」後藤大駕をはじめに戦力が充実、まさに期は気熟したと言えるが、相手・韮山には国宝級のディフェンスを持つ新藤穂月の「上手の手から水をも漏らさない鉄壁の守り」が待ち構えており、百戦錬磨の兵(つわもの)たちがどうやってその細かい網の目を掻(か)い潜る今から興味津々である。昨年の県総体 7 位の強豪・浜松西もこのブロック、2 回戦で

実現濃厚な蕪山との公立高校対決は屈指の好カード、蕪山にとっては浜松開誠館戦の前に高く険しい山場を乗り越えなければならない。

浜松開誠館は西部総体決勝で浜松学院興誠を下し西部王者としてそして県新人準優勝・東海新人ベスト8の勲章を胸に打倒・藤枝明誠の最右翼で県総体初優勝を狙う。過去10年、三大会優勝1回(令和3年ウインター)、準優勝12回、これほど安定した好成績を長期間続けるチームは藤枝明誠と浜松開誠館のみ、全国総体の舞台に縁がないのが不思議なくらいである。今回は「日の丸戦士」である後藤という大黒柱が最終学年となり、一気に全国を狙うビッグチャンスとなる。西部総体を見る限りでは、個々の能力が高さは言うまでもなく、オンコートで全選手が確率の高いシュートを常にセレクション出来るいたってシンプルなバスケットで戦い抜く印象を受けた。

197cm日本人最高身長・**後藤大駕**は言わずと知れた大器、父親でもある**後藤正規**監督の薫陶を受けて立派に成長、特に昨年のウインター予選以降プレースタイルに一段と磨きがかかり、大いなるリスペクトを込めて言わせてもらえば、静岡県が日本そして世界に誇る一流選手へと華麗な変身を遂げたと高く評価したい。今年開催されるFIBA U18アジアカップに向けてのエントリーキャンプや強化合宿にも参加するなど日の丸選手としての活動も板についてきた感がある。余談ではあるが2学年上の姉・後藤音羽(東京医療保健大学)も9月に行われるドイツ・ベルリンでの「FIBA 女子ワールドカップ2026」および愛知県名古屋市での「アジア競技大会」への合宿に召集されており現在「フル代表での日本代表候補」である。話を大駕に戻すと、東海新人では2試合で40得点、千種(愛知)戦では23得点の大爆発、美濃加茂(岐阜)戦では近年日本代表が強く意識するビッグマンでも積極的に外から打つ姿勢が見られ3Pを決めるなど代表での教えも必要に応じてチームに還元していく姿に感心させられた。西部総体決勝でもライバル相手に圧巻の20得点、後藤を軸に一本の芯が通ることで土台が出来ることは間違いない。学年を重ねるごとに確実に成長を続け、今後どこまでペイントエリアで奮闘出来るかが注目の的、もはや数字云々(うんぬん)のレベルの選手ではないが、欠場中の盟友・**木村暁大**の穴埋めも十分に果たし、木村が復帰すればシナジー(相乗)効果として1+1が3にも4にもなるだけに個々の活躍が待ち遠しい限りである。

キャプテンを担う**石田唯翔**は実践を重ねるごとにスキルアップが目覚ましい試合巧者、3Pの精度も格段と上がり、身を粉にして陣地を守る献身的なディフェンスも魅力、県新人・浜松商業戦では中を主戦場として勝負し19得点、まさにオールマイティーな選手であると褒め称えたい。**野口宗昭**はジャンプシュートと相手との間合いを詰めるインテンシティーあふれるディフェンスで貢献する。**小長井奏空**はチームの精神的な柱であることは言うまでもなく、得点力も大いに磨かれて、東海新人2試合でも40分強のプレイングタイムを与えられ18得点、シュート決定率6割を超えたことは大きな自信につながったはず、チーム間における高いレベルでの切磋琢磨が個々のスキルを伸ばしチーム全体の底上げにもつながった好例と言える。

187cmの長身を武器に中盤で試合を組み立てる**鈴木柊矢**も相手留学生の寄りを適切に見極めてインサイドに入り込み高さだけがバスケットの醍醐味ではないことを体現する選手、ディフェンスでもハードに相手を追い込む職人、まだまだ伸びしろ十分の選手である。滋賀国スポにも出場した**鐘ヶ江咲人**は福本・菌部・森田と並ぶこの世代のトップスター、ドライブからのプルアップジャンパーや仲間の合わせに呼応してのミートシュートで得点を重ねるプレーで観客を魅了する。県新人・東海新人ではあまり出場機会のなかった**柳川直人**が西部総体ではスタメン出場、特に決勝では二桁得点を決めるなど次々と新しい芽が次々と伸びてくるのもこのチームの特徴、後藤という日本を代表するエースを抱えながら、その他の選択肢でも攻め手が多いのが強み、鐘

ヶ江や柳川の高い得点能力が功を奏して外から得点が増えることでオフェンスにさらなる厚みが増す。その他にも、西部総体で出場した日高瑛仁・荒川檜翔・桑原慧斗・林健琉などが途中出場でバックアップ、倉敷南中学校(岡山)時代に全中ベスト 8 を経験した内田太一朗も加わり戦力も充実、毎年大型日本人センターをきちんと育成して留学生を軸とするチームと互角以上に渡り合える県内唯一と言える強豪、葦山・浜松学院興誠との上位戦を乗り切って5年連続の東海総体出場を勝ち取り、立ちはだかる最難敵・藤枝明誠を破って初のインターハイ出場を成し遂げたい。

葦山は東部新人に優勝して第4シードで臨んだ県新人ブロック決勝でウインター出場枠による推薦出場・浜松学院興誠に敗れ目標としていた東海新人を逃し、続く5位決定1回戦は東部新人決勝・1点差で下した沼津中央に今度は4点差で逆転負け、しかしながら7位決定戦では粘る飛龍相手に大差で快勝、東部王者の意地を見せた。東部総体では沼津中央の高さに翻弄されて惜敗を喫したが、今回東海総体出場権争いに十分絡んでくる強豪チームである。全体の特徴がこれほど明らかなチームも珍しく、全員が常に外から弾丸3Pを狙えるオールアウトの陣容、フロントコートにボールが運び込まれた瞬間に相手が常時ロングシュートを警戒し続けて、それでも果敢に外から放って高確率で決める。アラートが外に集まればシュートモーションで相手のバランスとタイミングを崩してドライブに持ち込む。相手がファイブアウトにアジャストしてくれば井上がスクリーンやグッドパス、そして絶妙にパスをレシーブしてシュートに展開させるなどフォーアウトワンインで選手同士の距離感を保ちスペーシングをうまく利用するバスケット、分かっているつもりでもやられてしまう、もちろん東部総体準決勝・富士宮東戦のようにインサイドだけで勝負を挑んで勝利を収めてしまうのだから相手にとってこれほど厄介なチームはない。東部総体決勝でも高さで勝てないと見るや外からの攻めを徹底、それがエグいくらいに決まって3P12本、控えの選手も含めてここまで徹底してスリーが決まり続けるチームは見たことがない。

大黒柱は「神のディフェンス」新藤穂月。ドライブのスピードに関しての進歩は把握済で想定内であったが県新人で1年ぶりに直接見た守備は想像を絶する進化を遂げていた。相手のオフェンスに素早く対応し、ボールマンの仮想コースをいち早く察知してトルソー(胴体)に垂直姿勢で追従、相手がシュートを仕掛ける一瞬の減速を見逃さずコースに入り込みブロックやオフェンスチャージを受けるテクニック、オフボール時にはボールマンとマークマンと自身が逆三角形を描く位置でフロートし、ディナイでパスコースを遮断しスティールに行くと思わせかけ相手に無言のプレッシャーをかける。飛龍戦で彼のディフェンスの一部始終を見させてもらい、このディフェンス技術を見られただけでも香陵アリーナに来た甲斐があったと実感した。試合後、僭越ながら本人に直接出来る限りのアドバイスをさせていただいたことは私にもとって光栄の極みだった。攻撃面でもチームの戦術に従い沼津中央戦でも3P3本を決める活躍を見せた攻守の要、今大会ではどのチームも対策を練ってくるだろうがその上に行くプレーが出来る素材であることは間違いなく、エコパの上位戦で多くの人に見てもらいたい選手、「国宝級」から「世界遺産級」に成長してくれることを心から期待する。

新藤同様3本の3Pを決めたのは佐久間金助、この選手ほど玄人はだしの選手もいない。試合を重ねるにつれてうまさが増え上積みされてきた筋肉隆々の選手、その裏には想像を超えた練習量があったことは容易に想像がつく。3Pの成功率が劇的に上昇し決勝でも3本決めてチーム最多の19得点を挙げ、今やアウトサイド軍団の一翼を担っている。超攻撃的選手・土屋凜空は躊躇なく放つ3Pと相手が3Pを警戒するあまりに腰高になり重心を崩した瞬間を見逃さずに繰り出すドライブが持ち味、こちらも決勝で3P3本を決めた。井上峻輔も言わずと知れたアウトサイドシューター、飛龍戦では外からのシュートは言わずもがな、自分が縦横無尽に動き相手にスペースを

作らせ仲間のペネトレイトを誘発させたり自らトラップとなり攻撃の芽を創り出たりするバスケット IQ の高さがうかがえる頭脳プレーが目についた。そして研ぎ澄まされた集中力の塊軍団をまとめるのがキャプテン・水野颯介。例に漏れずアウトサイドシューターではあるが、チーム随一 180cm という高さを生かしたインサイドプレーも卓越、彼をうまく利用したフォーアウトワンインの攻めも韮山の特色、決勝でも内外から 11 得点を挙げたスピードも併せ持つ選手である。このスタメン勢に加えて、シックスマンとしてしびれる場面で投入され監督の求めるバスケット像をコートで体現、決勝でも限られたプレイングタイムの中で集中力を発揮し 17 得点を挙げた川村蓮や、準決勝・富士宮東戦で万全の備えで終盤に途中出場してチーム唯一の 3P を決めた深澤慎之介など控えの戦力も充実、まずは昨年惜しくも逃した準々決勝進出を果たして強敵・浜松開誠館に真っ向勝負を挑み勝利を挙げて、65 年ぶりの東海大会・全国大会出場につなげたい。

昨年県総体 7 位・ウインター予選ベスト 8、そして県新人は惜しくも 16 強止まりとなった浜松西は西部総体で連敗し 4 位に終わったが、外枠・内枠シード以外では城南静岡と並び上位と互角に対峙できる数少ないチーム、地区順位だけで絶対に侮ることが出来ない強豪である。西部総体 3 位決定戦では同地区公立高校のライバル・浜松商業に惜敗したが、高身長選手を多く抱え一級品の司令塔がゲームをコントロールする確かな実力を持つチーム、強度の高いプレッシャーディフェンスも徹底されている。さらには常に複数選手が体を張ってリバウンドに汗をかき、セカンドチャンスをとことくものにして得点機会を増やすし、ディフェンス時も逆に相手にはセカンドチャンスを与えず得点機会を減らし、バスケットの基本を忠実に貫く姿勢が強く伝わる。

「司令塔としてコートを縦横無尽に駆け回り攻撃ではドライブと 3P、ハードな接触をも辞さないディフェンスも信条」などという月並みな賛辞でこの選手の特徴を言い表すのは失礼なくらい文字通り前記通りのプレーを基本に忠実に毎試合無言実行する辻本直矢や「バスケットの塊」とも言うべくテクニックを持ち、それにあぐらをかくことなく日々練習に精進し己を磨き続け、浜松商業戦でも 21 得点を奪った坂本陽樹を中心に、181cm の上背と広い肩幅と押され負けしないフィジカルでペイントエリアでの勝負に挑む石田真也とスピードを武器に果敢にペイントアタックを狙う山田祐碧、182cm の長身を利して石田と共にゴール下の防波堤となりオフenseでは巧みにハイポストフラッシュを見せる花井雄飛のインサイド勢は揃ってゴール下で身を粉にしてシュートやリバウンドに貢献する。期待の新戦力・浜松与進中で全中にも出場し、浜松商業戦でも見事得点を挙げた 180cm 原田隼を加えた戦力で、2 回戦で予想される韮山にどう挑むのか、常に対戦相手の研究を怠らず韮山の十八番・ファイブアウトでも対抗するだけの実力を兼ね備えるチームであるだけに、一瞬たりとも目が離せない好カードである。

その他の注目選手として、内田旺佑・宮崎聖推・伊藤智啓・太田啓斗・山口栄麻(韮山)、白壁昌也・飯島俐人・関一帆・五十嵐快晴・岡嶋玲・トゥグルドウルタミルラン・クロフォードマツト健心(加藤学園暁秀)、深井優孝・桑高蒼輔・山本基心(浜松西)、中澤優乙・村本尚輝・吉原虎珀・坂口司・エンデスダビデ・岩渕蒼生・五十嵐凱音・松浦巧真(浜松工業)、野中颯人・海野夢翔・外崎滯・長嶋来樹・鈴木理央・市川日陽・引地陸・小松優月(静岡市立)、鈴木瑛斗・岡庭正樹・白鳥佑宇・金刺暖・鈴木陽斗・杉山唯月・和田渉馬・大原恒輝・諸田晴日(静岡商業)、八木敦聡希・池谷月楓・中村航也・登澤朋哉・佐藤吏玖・飯塚芯・杉井脩弥(島田工業)などを挙げたい。

【女子】

こちらは現在大会 9 連覇中、3 大大会も 28 連覇を継続中、東海新人でも 3 年連続で 4 強入りを果たし、昨年一旦途切れた県内連勝も 25 まで伸びた浜松開誠館が頭一つ抜けているのは間違いないが、東海新人に出場して 2 年連続ベスト 8 に輝いた浜松南が西部総体決勝で 4 点差まで詰め寄り、「二強時代到来」も予感させた。その二強を迫りかけるのが、ウインター県予選準優勝・県新人 3 位と安定した成績を残す市立沼津、県新人 7 位そして 3 年ぶりに中部総体王者に返り咲いた藤枝順心の東部・中部覇者に加えて、3 年連続県総体 4 位で今年こそ東海総体出場を叶えたい浜松学院興誠や県新人 6 位で令和 6 年のウインター予選以来の県 4 強を射程圏内に捉えた沼津商業、そして県新人 5 位に入り 5 年ぶりの県 4 強も目前に迫ってきた常葉大常葉の地区準優勝チームを含めた優勝争いそして東海総体出場権争いに加え、浜松開誠館と浜松学院興誠のブロックリーグ参入争いにも注目が集まる見どころ満載の大会となった。

左上のブロックは、県新人を無類の強さで制し、垣内優希奈・小林陽菜乃という二枚看板を擁する浜松開誠館が圧倒的な強さを見せて勝ち上がってくるはずである。その中で準々決勝での無敵女王への挑戦権そしてエコパでの試合を賭けて、中部総体 3 位の静岡東と東部総体 3 位の三島北が直接対決する構図が予想される。昨年の県総体 1 回戦との同一カード、その時は静岡東が快勝したが今回は両チームとも地区 3 位、互角の戦いが予想される。

浜松開誠館は前チームから経験を積んだ下級生（当時）が多く残り県新人を力強い戦いぶりで制して 9 連覇、続く東海新人では星城（愛知）を難なく下したのち桜花学園（愛知）と岐阜女子に敗れたものの新チームの育成段階で全国トップレベルの強豪校と肌を合わせた経験は勝敗以上に収穫があったに違いない。西部総体も決勝で浜松南相手に詰め寄られるシーンは見られたが慌てることなく守り切って 10 連覇、そのまま県総体も 10 連覇へ勇往邁進する。

今年中心となるのは自慢の脚力と類まれなクイックネスで攻守に貢献する**垣内優希奈**。尊敬してやまない先輩・前川桃花（立教大学）とともに中学時代に全国優勝を含む圧倒的なキャリアを重ね、高校入学後も期待通りの成長を続け今シーズン注目ナンバーワン選手に辿り着いた。精度の高い 3P を始め、切れ味満点のドライブ、脚力を生かしたディフェンス、そしてリスクマネジメントを考えた一歩先への読みなどすべてがツーランク上の選手、星城戦では 3P6 本を含む 25 得点で相手の戦意を完全に削いだ。肩の脱臼に苦しんだ時期もあり、コートで見せる黒のテーピング姿は痛々しい限りであるが、弱音を一切吐かず不撓不屈の精神で一心不乱にバスケットに没頭する姿勢は見ていて清々しい。チームメイトは彼女の背中を見てさらに気持ちを高めていくに違いない。ダブルエースの**小林陽菜乃**はタイミングよく放たれるジャンプシュートと比較的華奢（きゃしゃ）な身体からは想像も出来ない強固なリバウンド支配でチームを牽引する。それが証明されたのは岐阜女子戦、13 得点 12 リバウンドで**ダブルダブル**を達成、特にオフェンスリバウンド 10 は仲間が外したシュートをセカンドチャンスでものにした何よりの証拠、チーム内での信頼をも強固なものにした。最終 Q 開始時に 3 点ビハインドと思わぬ大苦戦をした県新人・市立沼津戦でも自分を信じ仲間を信じ指揮官を信じて集中力を途切れさせることなく 16 連続得点を決めて流れを完全に引き寄せ計 24 得点を挙げて優勝の立役者となった。試合後の記者会見でも球際の争いで相手に負けていたという率直かつ謙虚な反省の弁も出て、私はまだまだ伸びていく選手だと強く確信した。

インサイドの**舟久保汐**は 177cm の長身を生かしたポストプレーやリバウンド争いで昨年来チームに貢献、県新人・東海新人では「さらに一歩前へ」という気持ちが前面に現れ戦場と化すゴ

ール下でも接触を厭(いと)わず積極的に立ち向かう姿勢が見られた。それを象徴するプレーが10得点14リバウンドでダブルダブルを達成した桜花学園戦、リバウンド争いに競り勝ち裏から回ってきた小林にハンドオフバスで攻撃の起点になった場面、マークマンを振り切りドライブでねじ込んだ場面、前後サンドイッチ状にダブルチームを決められながらも力強く決め切った場面も印象深い。トップ位置からペリメーター付近でパスを受け相手ディフェンスを巧みなジャブステップで振り払ってドライブを敢行し、遅れた相手ディフェンスからファウルレシーブ、さらにはバスケットカウントを決めて続くアンドワンをもきっちり沈めるプレーに会場から感嘆の声が挙がった。この大会ではさらに進化を遂げた超美技プレーの数々に期待したい。

東海国スポでも活躍した世代のエース・**吉田光咲**は何事にも躊躇しないプレーが特徴、ドライブ・ミドル・3Pをハイレベルにこなす稀代のスコアラー、桜花学園戦で見せた舟久保のスクリーンを利用した超ディープスリーは圧巻、パスのタイミングとスピードも一級品で得点を奪うだけでなく「得点機会をクリエイトする」のにもたけた一流選手と言える。東海新人全試合でスタメン出場した**古屋和奏**はアンダー日本代表キャンプにも参加経験があるキャリア組、プレーの幅が広く選択肢も多いため相手も対応に苦慮する場面も見られる。桜花学園戦で決めた3Pはその得点以上に彼女の血となり骨となり自信となったはずである。舟久保とは山梨のクラブチーム以来の気の知れた仲、試合中に見られる目と目で通じ合うコンビネーションにも注目したい。県協会U18優秀選手・**牧田知紘**は昨年秋に負った大怪我の影響で今大会も出場は難しいと思われるが焦らずリハビリに励んで早期の復帰を目指し、コートに戻ってくることを心から願っている。

現有勢力の層が厚いことは周知の事実だが今年の新戦力は例年になく大型補強、この先永遠に黄金時代が続く予感が漂う戦力補強となった。すでに新入生2人が西部総体でスタメンを飾った。**谷村帆香**は私が記憶する中で浜松開誠館史上最高身長179cm、昨年中学生ながら東海国スポ予備選手にも選ばれ最終的にU15優秀選手にも輝いた期待の星、**半田陽菜乃**は相模女子大学中学校(神奈川)時代に全中ベスト8に輝く経歴を持つ。全中・Jr.ウインター準優勝の四日市メリノール学院中学校からは**竹田花梨**・**佐藤ひまり**が加入、特に佐藤は有度一ミニバス時代に県選手権を圧倒的な強さで制して全国大会に出場し個人技で会場を沸かせた選手、3年ぶりに静岡県に凱旋し再びプレーが見られるのが楽しみである。また浜松開誠館中学校時代に東海中学総体準優勝で全中・JBA推薦枠でJr.ウインターにも出場した選手も多く入学、ともに東海国スポ予備登録選手・U15県協会優秀選手賞を受賞した**小長井優空**・**前川結望**を始め選手層がますます強靱化された印象を持つ。特に小長井は浜松南戦でも得点を決め、まさしく「即戦力」であることを証明した。勝っても指揮官と選手たちは飽くなき高い目標を掲げ、勝つたびに「勝って兜の緒を締めよ」と気の緩みを絶対に見せない姿勢に盤石の強さの秘訣がある。予想以上に苦しめられた浜松南戦を反省・分析しながら勝ち上がり、どのチームが相手でも自分たちのバスケットをやり遂げ同じ相手に同じ轍(てつ)を踏まないことを強く意識し、県総体優勝そして東海・全国の強豪に挑む。

静岡東は昨年の中部総体準々決勝で清水南に敗れ、以来常時目標としている「地区ベスト4以上・県ベスト8以上」を逃していたが、今回は幾多の死闘を繰り返してきた同地区のライバル・静岡商業とのすさまじい接戦を大逆転で制し中部3位、第8シードで県総体に臨む。理詰め頭の指導で県上位を維持し続ける**川村修**監督の熱い指導のもと、約束事の順守が徹底された守備と各選手がすべき役割をきちんと自覚しながらそれを責任をもって担う攻撃が調和したバスケットが特色、県内有数の部員数で選手層も厚く、個々の選手の実力も折り紙付きである。

新人戦以降オフェンスで自分が必要以上にボールを持ちすぎないことを強く意識してパスを仲間にさばいて散らし、時にここが勝負所と自信が察知した状況では強気なシュートを放つ**伊藤**

葵を中心に、隙を見つけてボールマンをコフィンコーナーに追い込み鍛え抜かれた脚を利用して低い重心で相手を追い込む**池田雛希**とボールマンの正面に対峙して両腕を 360 度に回転させパスの出どころと攻め手を失わせるプレーが光る**渡邊夏帆**という二人のディフェンスマスター、リバウンド・ルーズボールなど球際の泥臭いプレーを一所懸命に続ける**杉山奈南**、そして入りだしたら止まらないアウトサイドシュートの雨あられで相手の戦意までも奪い取る**澤口空**に加え、試合途中に効果的に投入され相手チームの 3 年生とも互角の勝負をしてくる新入生トリオの**諸田莉星・世古滯夏・宮内香帆**の存在が頼もしい。特に宮内は小柄というハンデをものともせず高洲ミニバス・ベルテックスユースで鍛えられた技術と精神力を武器に、相手が嫌がるディフェンスを徹底的に行って流れを自軍に引き戻し、尊敬してやまない先輩たちに後を託して次の出番に備えるまさに「必殺仕事人」、攻撃では鋭く切れ込むドライブを見せるスピードスター、2 年後のこの大会では静岡県を代表する選手なるポテンシャルを秘めたプレーヤーである。目標とする 4 年ぶりの県総体ベスト 8 そしてエコパでのプレーに向けて 2 回戦で予想される三島北戦は絶対に負けられない一戦となる。

東部総体準決勝で沼津商業に敗れたものの沼津中央との 3 位決定戦を制し新人戦に続く東部 3 位を堅持した**三島北**は個々の役割がきちんと分担されているなかでもマニュアル通りに行かないプレーには積極的にスイッチやヘルプで対応するなど危機管理意識が徹底しているバスケが目につく。またボールへの執着心がどのチームより強く、球際の勝負にも自信を持ち、鍛えられた身体でのディフェンスもまさに堅守、リバウンドも徹底されていて、効果的にゾーンも投入する場面もあり、さらには多くのアウトサイドシューターを抱える特徴の多いチームと言える。

そのアウトサイドシューターは、**菊地萌衣・高田美月・佐藤晴里奈**。3 人とも好不調のない安定した高確率の 3P が取り柄である。菊地は沼津中央戦 3 本、佐藤は沼津商業・沼津中央戦 2 試合で 3 本を決めるなど流れを自軍に引き寄せる潮目となるプレーが目立つ。**渡邊真奈**はベースラインドライブを得意とし相手に対応してくるとアイコンタクトで仲間の合わせを呼び寄せて絶妙なタイミングでバスを出す。そのパスも相手がミートしやすいチェスト付近に投げてシュートまでの時間をショートカットする配慮も忘れていない。**渡邊怜奈**は沼津中央戦・チーム最多の 17 得点、特にスタートダッシュが速く、常に先手を取って試合展開をする積極性がうかがえる。上記 5 人のスタメンだけで 40 分戦い切る試合も多く、5 人のタフネスには感嘆せずにはいられない。同じシード位置で挑んだ県新人で同じく中部 3 位の静岡商業に競り負けてベスト 8 を逃した悔しさをバネに初の県総体 8 強、そしてエコパでのプレーを誓う。

今大会女子唯一の初出場は西部 8 位・**磐田東**。ノーシードの組み合わせから県大会常連の浜松湖南・浜松東を倒して県総体初出場を決めた。まだ経験の浅いメンバーが多く、大会後半では浜松南・浜松商業・浜松市立に連敗し経験値やスタミナ面での課題も浮き彫りになったが、昨年来挑み続けた県大会出場の目標を達成したことは見事の一言に尽きる。昭和 34 年に磐田地区唯一の私立高校として創設、当時は女子校であったが昭和 58 年に男女共学化、野球部とサッカー部を中心に強化を始めてプロ野球選手や J リーガーを多く輩出してきた。女子バスケ部は学校創設翌年の昭和 35 年に創部、長年県大会出場を目指して日々研鑽を重ね、平成 21 年度西部新人では 10 位になり初の「県大会出場」を果たした。それでも県総体には全く縁がなく県新人初出場から 16 年が経った今年、選手たちを悲願の県総体初出場に導いたのが就任 3 年目の**小前宏史**監督。磐田東が初めて県新人に出場した時に立ちはだかったのが、当時小前氏が監督を務め、後述する安田の姉・安田沙羅が主力だった常葉学園（現常葉大常葉）というのも何かの因縁を感じずにはいられない。言わずと知れた静岡県が全国に誇る名将中の名将、全国大会出場 38 回、全国通算

勝利 60 勝、そして県内唯一無二の 2 度に及ぶ全国制覇、併設の常葉学園中学校（当時）を率いても全国出場 13 回、全中準優勝も経験した実績を誇る指揮官がコーチ・小前利徳との指導者版親子鷹として強化に乗り出してから 2 年目にしての県総体初出場に拍手を送りたい。チームは一戦必勝をスローガンにリバウンドから 5 人で走るトランジションバスケットが特徴、ファストブレイクのスピードと完成度を一段と強固なものにすることに意識を集中する。西部総体を見ると、チームの共通認識の意識レベルが高くアーリーオフェンスの合わせが多彩で、ディフェンスに対して淀むことなく流れるように対応出来ていて、波に乗るとその勢いはなかなか止められない印象を受けた。

上級生は部員数が少なくなかなか県大会出場が見えてこない時代から名将の教えを頭と身体に刻み込んだ選手たち、主将・安田李愛瑠は弥富北中学校（愛知）・星城高校で全国の舞台を経験、転校による充電期間を経て今回の西部総体から県内公式戦デビュー、スピードとパワーを生かした内外問わない得点力が魅力で早くもエースに君臨、動きのスタート・ストップのメリハリがよく、ペースオブチェンジを駆使し冷静に判断してディフェンスをかわしながらオフェンスの要としてアイソレーションも任せられるワンランク上の選手、最初で最後となる静岡県総体で自分の実力を遺憾なく発揮して欲しい。走れるセンター・松下月希乃は 170cm の高身長ながらチームのトランジションバスケを大動脈となる走力とゴール下でのリバウンドが特徴、指揮官も彼女のリバウンド支配がチームの生命線と考え、ブレイク時でもトップを走ることが出来てサイズでの優位性も作り出している。3 年生・山本結夕はチームの精神的支柱としての役割を担う。新戦力に目を移すと、中学時にたんぼぼ BC（埼玉）の一員として Jr. ウィンターベスト 8・1 年生ながらガッツあふれるディフェンスとシュート力で安田・松下とともに要となる司令塔・星野千尋は 1on1 に絶対的自信を持ち、高いハンドリング力と脚力を生かしたポイントガード・関本朱衣はディフェンスがうまく、スティールを常に狙っていて周囲がよく見えており、ディフェンスに囲まれても慌てることなくパスを散らせる。その他にも、自慢の脚力が生命線で今後の飛躍が楽しみな将来性あふれる高橋海結、こちらも鍛えられた脚力とパスセンスが特色・中島ゆい、そして高身長を生かした力強いプレーは桁外れ、脚力を付けてコートでそれを見せられればワンランク上の活躍ができる村田來夏など新進気鋭の面々で「一心・一途・一筋」に立ち向かい、強敵・静岡東との初戦で県初勝利を目指す。

加藤学園暁秀は 11 位決定戦、負けたら多くの 3 年生が引退となる桐陽との運命の一戦に快勝して最後の県総体切符を掴んだ。近年深刻な部員不足に悩み、令和 4 年度東部新人は沼津東、今年の東部新人では沼津城北との合同チームで出場、予選リーグを 2 位で突破したものの決勝トーナメントで富士東に惜敗、合同チーム史上初の県大会出場は果たせなかった。その後富士東は 22 年ぶりの県新人を決め互いの明暗がはっきり分かれた形となった。今春新入生が入部し東部総体は単独チームで出場、見事平成 18 年以来 20 年ぶりの県総体出場を果たした。男女とも県大会常連の加藤学園と同じ法人の系列校、両校とも男女が県総体に揃って出場する初の快挙となった。学校自体は国際バカロレア資格認定校で、国語を除くほとんどの授業が英語で行われることもあると聞く。昨年度末 5 人だった部員にクラブチームで活動していた新入生 3 人が加わり 8 人となった新チームは少人数でも効果的に出来る練習を組み立てて、「賢者は強者に勝る」を合言葉に常に考えるバスケットを展開、サイズやスピードなどの個の力で勝てなくても声と運動量でカバーしチーム戦術で勝つ全員バスケを特徴に県大会に臨む。

高い身体能力を武器にゴール下やミドルでチームを支え、ゲームキャプテンとして力強いドライブやコンタクトからのプレーで流れを変え、窮地を救うチームのエース・佐竹珠寿を中心に、果敢なドライブで悪い流れを打破する高い遂行力を持った選手で精神的にも目覚ましい成長を

遂げて実力・信頼ともにチームを牽引する大黒柱に成長した**杉山心夏**、2年生としては完成度の高い3&D選手として高精度な3Pと粘り強い守備を兼ね備え攻守の要として活躍、自己の役割を完遂する献身性と戦術への高い理解力は勝利に欠かせない極めて貴重な存在・**小林桃子**、そして入部即レギュラーを掴み縁の下の力持ちとしてチームを支え、粘り強いディフェンスや絶妙なタイミングでゴール下に飛び込んで得点を量産するなど、常に足を止めず献身的な動きで攻守の起点となり早くもチームに不可欠な選手にまで育った**勝又莉矛**などの県総体参加最少8人の少数精鋭チームが立つ20年ぶりの檜舞台は前回出場時も対戦して敗れた浜松開誠館、非常に厳しい組み合わせではあるが胸を借りるつもりではなく勝利を目指して思い切り女王にぶつかってもらいたい。

その他の注目選手として、**齋藤プレガマリアム**・**片岡美紗**・**鈴木千夏**・**齋藤蓮**・**山田華鈴**・**黒川莉音**・**佐藤みなみ**・**平野夢歩**(浜松開誠館)、**井邑心優**・**利碧華**・**長谷川凜**・**土屋惺愛**(静岡東)、**武井結梨**・**宮川明湊**・**鈴木萌乃**(加藤学園暁秀)、**鎌野優依**・**稲葉凜**(三島北)、**鈴木寧音**・**佐田優花**・**萩原咲菜**・**山中史芽**・**嶺遥菜**・**佐々木花**・**大門由依**・**鈴木莉子**(三島南)、**水野怜来**・**塩坂彩菜**・**望月葵衣**・**黒田琴葉**・**栗田恋羽**・**山下美帆**・**望月莉杏**・**稲森光華**・**水崎こころ**(静岡大成)、**坪内杏香里**・**元野日葵**・**鈴木麻由佳**・**松浦雫**・**藤本理瑚**・**小長谷泉水**・**田中澪莉**(静岡)などを挙げたい。

左下のブロックは、県新人4位の浜松学院興誠と県新人5位・中部総体王者の藤枝順心が「東海総体王手」を賭けての対戦が濃厚である。特に藤枝順心は併設中学から県内最高身長181cm富田良奈が加入し静岡県高校女子全体の泣き所でもある「高さ」の点で他チームを引き離したと言える。激戦区西部を1敗のみの3位で切り抜けた浜松学院興誠との対決、興誠も伝統的に上背を生かした戦いを得意とする試合巧者、最後までどちらに勝利の女神が微笑むのか全く予想がつかない。常に県上位をキープする西部4位・浜松聖星もこのブロック、2回戦で対戦が予想される中部王者相手に一泡吹かす可能性も十分にある。

浜松学院興誠は県新人ブロック決勝で4たび常葉大常葉と対戦し4度目の勝利を挙げて決勝リーグに進出したが体調不良選手が多く出て万全の戦力で戦えず県4位で2年ぶりの東海新人出場を逃した。西部総体では準決勝で浜松南に惜敗したものの浜松聖星に勝って西部3位の位置から4年ぶりの東海総体出場を狙う。過去3年間は3位決定戦で敗れ3年連続の県総体4位、その成績も立派の一語に尽きるが、県総体では1位と2位、そして3位と4位では得るものも今後のビジョンも大きく変わってくることは言うまでもない。背水の陣で臨む今大会で是が非でも東海切符を掴んでウインター予選にもつなげたい。選手個々がそれぞれトップレベルの能力を持ち、そこから生まれるケミストリー(化学反応)がチームの最大の特色である。

中心となるのは爆発的な得点力でチームを支える**袴田千愛**。ウインター予選ベスト4進出の立役者、県新人・市立沼津戦でも相手の執拗なマークを脚でかき回しながら振り払い19得点、分かっているように止められないオフェンス力に脱帽するしかない。西部総体・浜松南戦ではプレスを浴びる前に放った3Pも決まるなど身体能力の高さで敵を翻弄、まさに「オフェンスの調整弁」として多岐に渡る役割を担う。ドライブも強いハードなディフェンスをモットーとする**ワネケジナディア羽樹**はオフェンス面でも大きな成長を遂げ172cmの長身を生かしたゴール下やポストプレーでの貢献が光る。勝つか負けるかによってその後の県総体組み合わせにも大きく影響する浜松聖星戦で3P3本を含む37得点、特に後半は独壇場とも言える活躍をしたのは**本間輝星**。まさにスピードバスケの申し子とも言える迫力あるオフェンス力と高さは脅威の的、固いディフェ

ンスで知られる浜松南相手にも総得点の半分以上を超える 27 得点、対戦チームも十分対策を練って臨むであろうが効果的な対策法があれば私が知りたいレベルの選手である。得点力と言えば**榊原碧**も負けていない。本間の活躍の陰に隠れた形になっているが指揮官も仲間も彼女のおかげで勝利を手に入れた試合が幾多もあることは誰よりわかっている。浜松南・浜松聖星での活躍もさることながら彼女の真骨頂は準々決勝・浜松商業戦、14 点リードで迎えた第 4Q に相手の猛追に遭い、吸い込まれるように連続して決められた相手 3P による怒涛の攻撃に耐えられたのは、チームの堅守とその後の榊原による連続得点での突き放しのおかげに他ならなかった。シュート後のスクリーンアウトも徹底、泥臭くリバウンドに絡む姿はチームの模範と呼ぶのにふさわしいプレーを見せる。

その他にも、ファンダメンタルな練習にも決して手を抜くことなく誠実に取り組み、冷静沈着な判断力でチームを統率するキャプテン・**杉浦心音**、西部総体でもスタメン出場し 3P を高確率で決めて今後要所で大切な飛び道具をなるであろう**江坂椎果**に加え、Jr. ウィンターに出場したクラブチーム・ONE から**岩田依里那**・**山口些々**・**内藤妃梨**が加入、戦力に厚みが増した。粘り強いディフェンスから流れとリズムをつかみ最短距離・そして最速でブレイクに導くバスケットでまずは中部王者を倒して県王者に挑みたい。なお、準決勝に進出して相手が浜松開誠館の場合、その試合が「東海総体出場決定戦」となるだけでなく「ブロックリーグ参入戦」とも銘打たれ、両チームにとって絶対に負けられない試合になる。

藤枝順心は一昨年秋に**寺本真佐義**監督が着任して以降着実に順位が上昇し、県ベスト 16 で引き継いだチームを昨年のこの大会で県 7 位、ウィンター予選でベスト 4、県新人は 7 位、今回は初の東海総体出場が視界に入る位置まで漕ぎつけた。過去東海新人には 3 度出場し勝利も挙げているが東海総体には未踏、是が非でも達成したい大きな目標である。中部新人決勝では 44 点差で敗れた常葉大常葉に 2 週間後の県総体で 5 点差まで追い上げ、中部総体決勝では逆に 18 点差をつけて完勝、男子を制した藤枝明誠とともに 3 年ぶりの「学校法人 藤枝学園」姉弟アベック優勝を飾った。

素早いローテーションに相手の攻撃を緻密に予見したポジショニング、バリエーション多彩なシュートなどが功を奏した結果であることは間違いないが、昨年度県協会 U15 優秀選手・181cm **富田良奈**が加わって、数少ない弱点でもあった高さに強みが出たことも大きい。長身選手に多い単なるリバウンダーではなく、ハイポストやオフボール時のスクリーンやブラッシングをかけての鋭い切れ込み、コーストトゥコーストの走り、ノーチャージングエリアでの相手トルソーにバンプしてのシュートなど 1 年生とは思えない迫力満点のプレーで見る側の度肝を抜いた。その姿は昨年度現役高校生ながら国スポ成年女子で大活躍した東海大静岡翔洋・稲葉叶(桐蔭横浜大学)を彷彿させる驚きの連続であった。静岡県にとって平成 27 年の 183cm 新村莉子(浜松学院・当時)以来 11 年ぶりの 180cm オーバー長身選手、もちろん令和初、この「金の卵」がどう育っていくか興味深く見守りたい。

その富田がゴール下の砦として奮闘するからこそ、高い 3P 確率を誇る小池と窪野も安心して躊躇なく外から打てる相乗効果を生み出している。**小池果寿**は中部準決勝・静岡商業戦で放ったディープスリーの新月面に描いたような放物線が印象的、決勝でも 3P5 本を決める勝負強さを見せた。**窪野琴乃**も途中出場した決勝で華麗な 3P とスティールを見せて優勝に貢献した。**松村晏奈**と言えばトップ位置で見せるロッカーモーション、巧みなステップと低い姿勢で加速するドライブでレイアップ、遅れたディフェンスがイリーガルな手でシュートを止めてもバスケットカウントするだけのテクニックを持つ。ディフェンスでもシュートチェックを忘れず相手の成功率を落とすために今何が出来るかも考えてプレー出来る選手である。攻守の中核となる**石田妃菜野**

はきちんと重心を落として「ディフェンスを遅らせる」というスクリーンの基本のキを忠実に実行、ディフェンスに目を移せばゴール下でのディフェンスリバウンドで速攻の起点となり、リードパスから味方のドライブに勝機を委ねるプレーが特色、献身的なプレーで攻守の中核を担っている。富田とともに U15 優秀選手に選ばれた**武田奏美**も新入生ながら中部総体では堂々スタメン出場、ドライブや 3P にその高い能力を発揮し将来性に満ちた選手である。その他にも、左方向へ流れるようなドライブを得意とする**望月柑那**、パワードリブルを効果的に挟んだゴール下が魅力の**井上夏海**、171cm の長身を生かしてリバウンドに汗をかく**岩崎珠絹**、そして甲斐敷島中学校(山梨)時代に関東中学総体を突破して山梨県の中学史上初の全中出場を果たし、最後の Jr. ウィンターでは SHIKISHIMA クラブの一員として再び全国の舞台を踏んだキャリアを持つゴールデンキー・**小林清菜**などの高さとうまさと速さが有機的に調和した戦力で、テンポ良いクイックパスからのポストプレーに持ち込んで試合を優位に運んで浜松学院興誠との準々決勝を制し女王・浜松開誠館に挑み、東海・全国をも目指す。

浜松聖星は一昨年の県総体は 7 位、昨年度は全大会でベスト 16、安定した成績を残し続け今回西部総体準々決勝で浜松市立を 3 点差で破り西部 4 位で大会に臨む。浜松市立戦はゴールデンキー・**高橋七海**が 3P2 本を含むチーム最多の 17 得点の大活躍、ONE の一員として**橋本瑠音**・**松井綺音**とともに Jr. ウィンターに出場、全国王者・京都精華学園中学校相手に延長にまでもつれる大会ベストゲームを繰り広げたことは記憶に新しい。このチームの特徴は誰でもどこからでもアウトサイドシュートが入ることで、3P が勝負の生命線となる。常にバックコートからプレッシャーを掛けて、隙あらばすかさず畳みかけるダブルチームが強力、ひとたびボールを奪えば迷いなく速攻に持ち込みシュートを決め切り、展開の速いバスケットで勢いよく攻めるのも特徴である。

キャプテンとしてチームを牽引する**神谷安璃**と浜松学院興誠戦・勝負所での確に 3P3 本を決めた**富永悠香**の 3 年生を中心に、先陣を切って相手コートに飛び込んで切り崩しにかかり、加速して果敢にリバウンドに飛び込む**高澤詩織**、ドライブによる突破を得意とし高い得点能力を持つ**富永悠香**、昨年来キャリアを重ね続ける**松平光稀**・**大場有夏**の 2 年生勢、上記の新入生に加えて試合序盤の早い段階から指揮官の命(めい)を受けて途中投入されて得点に絡みフリースローも落ち着いて決められる**山田沙和**など地区 4 位とは思えない多彩な戦力を誇る。意識の根底にある「常にボールと人が連動し続けるバスケ」で 2 年ぶりのベスト 8 を狙う。

その他の注目選手として、**向坂翼**・**山本彩心**・**田中ひかり**・**戸波亜子**・**長谷川瑠華**・**今村樹里愛**・**堀川奏羽**(浜松学院興誠)、**小塚愛莉**・**前田夕澄**・**遠藤ひまわり**・**南都香咲**・**天野葉菜乃**・**田村実奈美**(伊豆中央)、**芹澤美実香**・**芹沢天音**・**杉山未来**・**勝又小葉音**・**長澤鈴**・**内山なつみ**・**芹沢美空**(御殿場南)、**佐藤ひなた**・**日吉希心**・**秋田谷誇花**・**齋藤美桜**・**山本雪那**・**佐藤わかな**(飛龍)、**菊岡南那**・**小久保有紗**・**関根美緒**・**高橋優芽**・**内山留瑠**・**袴田蒼**・**袴田茜**・**藤井ひより**・**山田咲織**(浜松市立)、**増田芽衣**・**鈴木杏奈**・**鈴木美虹**・**後藤玲奈**・**中山恵莉**(浜松聖星)、**白幡想**・**片岡侑希**・**伊藤瑠花**・**藁科芭乃**・**川村潤葉**・**長谷咲**・**鈴木夢羅**(島田商業)などを挙げたい。

右上のブロックは、順調に行けば東部総体決勝の再現が準々決勝で実現する公算が高い。県総体開幕 2 週間前から両軍の目に見えない駆け引きはすでに始まっていて、「前哨戦」となった東部決勝ではこの世代のスターである岩田真奈の活躍で市立沼津が沼津商業を下したが、アンダーカテゴリー時代からお互いの手の内を知り尽くした選手同士が繰り広げる同地区の「名勝負数え歌」、今回はどのようなメロディーが両チームから奏でられ、最後に勝利のスタンディングオベ

ーションを受けるのはどちらなのか、今から「決戦の日曜日」が待ちきれない。ただ沼津商業はその決戦前に県新人 8 位・静岡商業という強敵を迎え撃たなければならない。

市立沼津は県新人最終戦で浜松開誠館を終始リードして最終 Q へ、残り 8 分で女王の猛攻に遭い逆転されて大魚を逃したが 3 位で 4 年連続の東海新人出場を果たした。東部総体では一昨年の決勝で敗れた沼津商業にゴール下・リバウンド・ルーズボールなどの強さで競り勝ち 2 連覇、今大会は 5 年連続の東海総体出場はもちろん、浜松南そして浜松開誠館を倒して 13 年ぶりの優勝、そして 10 年ぶりの全国総体出場をも射程距離圏内に置く。

中心となるのは垣内・小林・牧田（浜松開誠館）とともにこの世代屈指のトッププレイヤー・**岩田真奈**。上記 3 選手とともに昨年度県協会 U18 優秀選手に選ばれた逸材、苦しい時に得点に直結するプレーを数多く見せ、膠着した展開を打破する突破口となるプレーが持ち味の選手である。ゲームコントロールのうまさもトップレベル、冷静に状況判断が出来る選手でセンターラインを越えた付近から広めにシュートエリアを確保し広い視野で次の攻撃の見極めベターではなくベストの選択を出来るトップアスリート、1on1 は彼女の場合オフェンスではなくディフェンス時の動きと間合い、相手との駆け引きにも注目して欲しい。岩田は東海新人・四日市四郷戦で 3P3 本を含む 16 得点を挙げたが、チーム最多得点を挙げたのは 18 得点の**野崎芽依**。県新人で初めてこの選手を見たがとにかく点を取る嗅覚に優れ決勝リーグ 3 試合で 39 得点、シュート前の絶妙なポジショニングにその答えがある。**清水希**も点取り屋、同じく決勝リーグで計 46 得点、特に浜松開誠館戦では 3P2 本を含む 20 得点、飛び込みのリバウンドでセカンドチャンスもものにした。県上位戦で女王相手に 1 人で 20 点取れる選手が他にいるのか私は思い浮かばない、それだけの偉業を果たしたと言える。

土橋莉空は「次世代のスター」として日々成長と研鑽・精進を重ねる。沼津商業戦でも序盤 3P や落ち着いたフリースローで得点を決めたが、この選手の魅力はアシスト・リバウンド・スティールなどのスタッツ、そしてそれでも表しきれない球際の粘りやオフボール時の動き、そして自己犠牲も顧みないチームへの献身度、いわゆる「ゴーストスタッツ」に集約されている。個人的には国スポへの選出そしてウインター予選県武道館 3 試合の経験が成長を後押ししていると感じる。相手に「パスの出しどころ、ドライブのコースが見いだせない」と思わせるレベルのプレッシャーディフェンスが取り柄、コートを走り回って味方の良さを引き出しつつ自身も活躍の場を見出してチームに貢献する「今大会絶対に見るべき選手」の一人である。「リバウンドが強い」これが今年の市立沼津の強さであるが、**岩川恵里花**はそれを象徴する選手、170cm の長身を生かしたリバウンド支配が試合全体の流れを引き寄せる効果もあり、自分より長身選手が軒並み多い上位戦でも鍛えられたフィジカルを生かしリバウンドを掴み勝利の女神になって欲しい。**塩川環菜**も土橋同様東海国スポで積んだ経験が土台となった選手、貴重な控えとしてシビアな場面で当たり負けしないドライブを期待されて鋭意投入されるのは指導者の信頼によるものに違いない。新入生に目を移すと**奥田結愛**は東部総体ですでにスタメン出場、得点も決めており県総体でそのプレーを見るのが楽しみである。**濱島莉乙**という U15 優秀選手もチームに加わったことは将来的に大きな戦力アップと言える。県制覇のために当然長く険しい道のりが続くなかで、まずは沼津商業との再戦を乗り越えて県新人で敗れた浜松南にリベンジを果たして東海総体出場を手中にし、女王との戦いに進みたい。

東部総体 2 位の**沼津商業**は下級生戦力が充実し、5 位となった一昨年度以来の県総体ベスト 8、そして初の東海総体出場も見えてきた。そのためには 2 週間前に敗れて辛酸を舐めさせられた市立沼津に勝つことが絶対条件となる。県新人では常葉大常葉との 5 位決定戦、両軍とも体調不良

者が続出し十分なコンディションで戦えず実力を出し切れないまま敗れ惜しくも 6 位となったが、万全で望む今大会は初の東海総体出場も視野に入る戦力が揃う。ディフェンスのプレッシャーから速攻につなげていく組織的なバスケットが特徴、ブレイク時のパスの精度やここぞの場面での決定力も目に見えて向上してきた。市立沼津戦では序盤に先手を打たれ終始追いかける展開になったが、元来沼津商業のバスケットは先制してから固いディフェンスで相手の追撃を許さない展開が持ち味、序盤一気に突き放す展開になれば市立沼津も動揺し、慌てて作戦を練り直す場面もあるだろう。

昨年来チームを牽引しリバウンド・ルーズボールなどで粘りを発揮、市立沼津戦序盤相手に一気に離されそうになる展開で必死に決めた 4 連続シュート成功のシーンは手を抜かずひたむきに立ち向かう姿の象徴となった**田口心優**を筆頭に、司令塔を担い広いシュートレンジで多彩なシュートを放ち市立沼津戦ではチーム最多の 14 得点を挙げた**稲田千優**、東部総体・三島北戦でも続けて決めた 3P が 18 番、得点力が期待できるシューター・**稲田千愛**、チームが目指す脚を止めずに常に動き続けるディフェンスで守りの要となる**森山結愛**、試合開始から終了までスタミナが切れることなく走り続け、そのスピードがいつでも得点に結びつくまさにタフネス・**河野麻穂**のスタメン勢を中心に、まずは 2 回戦で静岡商業戦を乗り切って昨年達成できなかった県総体ベスト 8 を決めて、今度こそ市立沼津にリベンジを果たしたい。

静岡商業は県新人 2 回戦で三島北を破り 2 年連続で県新人ベスト 8 入りを果たした。近年安定した成績で県上位を維持、特に毎年インサイドを立派に育て上げて強豪と互角に渡り合えるだけのチームを完成させながら激務である国スポ成年女子監督も兼ねる**谷川奈穂**監督が厳しくも母校の指導に誇りと愛情を持ちながら采配を振る姿を見るたびに心が動かされる思いである。

インサイドの 172cm **清水姫花梨**は代々引き継がれる静岡商業大型インサイドの伝統を十分に理解し大型選手の育成にも定評がある指揮官自らが手塩にかけて育てた逸材、スピード感満載の走れるセンターそしてドライブや 3P も果敢に挑むオールラウンダー、マッチアップする相手もそれを十分承知していながらスピードに翻弄される場面が多く見受けられた。敗れたものの中部総体 3 位決定・静岡東戦では 26 得点、中部 3 位チームでもこの選手は止めきれなかった。キャプテン**池上成実**はコート縦横無尽に走りスペースを生み出す天才、シュートセレクションに優れて中部総体・駿河総合戦でも相手を意気消沈させるほど要所で適格なシュートが決まったスコアラー、3P シューターの**本間瑠夏**も好不調の波を感じさせず入りだしたら止まらないアウトサイドシュートが魅力、ベースラインぎりぎりの角度のない所からもリングに吸い込まれる華麗なスウィッシュシュートを打つ。

その他にも山椒は小粒だがピリッと辛く、池上が作り出したスペースに切れ込みシュートに持ち込み、時にはダミーとなって相手を幻惑させネクストチャンスを演出する**石上小遥**、とにかく球際の泥臭いプレー特にルーズボールには命を賭けて奪いに行く姿に静岡商業の本質的強さが映る**水野環**のスタメン勢に加え、控えの下級生である**望月杏詩**・**文谷柚華**の成長にも私は目を細めた。特に文谷はハイポストやペリメーター付近で落ち着いて腰を落とし安定感あるスクリーンを随所で仕掛け明らかにディフェンスを遅らせているプレーを見て、県新人から短期間でのスキルアップに驚いた。2 回戦で予想される県新人で敗れた沼津商業との伝統商業高校対決を制し 13 年ぶりの県総体ベスト 8 に駒を進めたい。

その他の注目選手として、**海野咲良**・**増田瑛音**・**杉山莉寿**・**飯田琉永**・**梅原妃乃巳**(市立沼津)、**小林ひなた**・**櫻井葵**・**中村桃花**・**千家結奈**・**文谷心美**(静岡商業)、**加藤和奏**・**熊谷結月**・**細野楓花**・**田口結愛**・**渡邊紅玲羽**・**諸伏なごみ**(沼津商業)、**小畑ななみ**・**高橋香音**・**桑原樹梨**・**木村璃**

良・日吉怜來・稲彩葉・原千夏(加藤学園), 小里陽詩・佐藤あや香・杉本閃里・樋口凜優・山下莉子・増井日南乃(磐田北), 池谷璃子・久保田未瑠・鈴木花音・廣瀬あかり・大谷歩南・松田凜咲(浜松日体), 宮城島夢子・神谷芽維・平岡希星々・平沢妃花・飯田萌日花・手塚希海・大井真琉(清水南), 末益愛清・鈴木沙羅・小出千咲登・溝口真由・杉本菜結・攪上心美・犀川未悠・山本愛香(浜松湖東)などを挙げたい。

右下のブロックでは、県新人準優勝・東海新人ベスト8で浜松開誠館に勝るとも劣らない厚い戦力を誇る浜松南が無双女王に迫る勢いと戦力を持ちストップ・ザ・開誠館の一番手として群を抜く異次元の実力を持つ。西部総体決勝で見せた金子莉央・相澤彩乃を中心とした怒涛の攻めと鉄壁の防御は9連覇中の王者としても決して侮ることは出来ない。それを猛追するのは県新人5位・中部総体準優勝で堀田明里という今大会屈指の司令塔を擁する常葉大常葉、5年ぶりの県4強を目指す常葉が東海8強の浜松南相手にどのようなバスケットを見せるのか、楽しみな準々決勝が待ち受ける。

西部総体準優勝・浜松南は新チームになっての敗北は県王者・浜松開誠館と東海王者・四日市メリノール学院のみ、東海大会も総体・新人と合わせて3大会連続ベスト8を死守、西部総体決勝でも9連覇中の浜松開誠館に最終盤猛チャージをかけ王者を土俵際徳俵まで追いつめて4点差で敗れたものの、この借りを県総体決勝で返して43年ぶり3回目の優勝・全国総体出場を目指す。もちろん一戦必勝、油断は禁物だがもはや2年連続の東海総体出場は最低限のノルマ、すでにこのチームの完成度はこのレベルまで来ていると断言してもよい。今シーズンもキャリアを重ねた選手を多く抱え、選手層の厚さだけではなく経験値の上昇、そして県制覇と全国出場に向けた闘志と執念が伝わってくる。充実した戦力がピークを迎えている今、県立高校としては平成22年の静岡商業以来16年ぶりの県総体優勝、そして平成27年・駿河総合以来11年ぶりの全国総体出場も射程圏内に捉えている。西部総体を見た印象としては、誰もが起点になれて誰もが得点できてなおかつどのプレーも極めて高いレベルにあり、状況に合わせてさまざまな特色が発揮出来る持つチーム、というのが率直な感想である。

何度も言うようだが個々の選手の能力が非常に高く特定選手のワンマンチームではないため、「全員がエース」とも言えるチームであるが、やはり大黒柱は県選抜で培ったキャプテンシーを胸に心身ともにチームの支柱となっている**金子莉央**。常々ボールキャリアの時間を意識し「持ち過ぎない・キープし過ぎない」を意識しフロアバランスを考慮に入れた機転の利くパスを出すのが特徴、高い得点力を誇り、大試合になればなるほど勝負強さを発揮する強心臓の持ち主である。西部決勝・8点ビハインドで折り返し誰もが後半早々常勝王者が独走態勢に入ると思ったが、第3Q・金子の8得点などで5点差まで追い上げ最終的に追撃及ばず4点差で敗れはしたが、後半だけで金子が決めた3Pは4本、数々の修羅場を切り抜けてきた達人の成せる技と言える。オフェンスでは3P・ドライブ・ポストプレーなどオールラウンドな引き出しを持ち、ディフェンスでは常にプレッシャーを掛け一瞬の隙も逃さずスティールを狙う。同じく点取り屋・**相澤彩乃**も1年次に東海国スポを経験したキャリアが成長に拍車をかけ172cmという長身を利したポストプレーと当たり負けしない攻守で勝利に貢献、東海新人・四日市メリノール学院戦でも17得点もさることながらブロックショット3本を記録し守りでも貢献、スタートダッシュが素晴らしく相手ディフェンスが効いてコースコアゲームに持ち込まれても得点を重ねられるのが強みと言える。170cm **金森柚妃**は長身選手としては珍しい3番ポジションでバリエーション豊かな攻撃をコーディネートする万能選手、東海新人・岐阜農林戦でも4本決めた3Pシュートが最大の特徴であるが私は相手パスを受けてのミドル位置でのターンシュートを高く評価する。またゴールに正

対したアウトサイド位置からのオフenseパターンも強力な武器となっていることも見逃せない。

チーム最高身長 174cm・**鈴木華蓮**は外周りが安心して 3P を受けるだけの環境を強く意識している。スクリーンアウトでは相手にボディコンタクトして俊敏に相手を背後に回しリバウンドを慌てずに支配するテクニックが光る。172cm **鈴木瑚々**も控えのインサイドとしてリバウンドだけでなくミドルシュートでも貢献する。二人の活躍はこのチームのオフenseの多彩さの象徴とも言える。その他にも、西部総体からスタメン起用され著しい成長を見せた**大隅友梨乃**、東海新人 2 試合で 10 得点を決めた**西沢紗奈**、リバウンドやドライブでの貢献度が高い**安間早紀**、東海新人で得点を決めた**坂倉百香**・**夏目紗奈**、長身 172cm **中林千晴**、東海新人に出場し打った 3 本シュートのシュートがすべての的確に入り出場 4 分で 7 得点を決めた**富田結衣**、浜松開誠館戦途中出場し得点を決めたルーキー・**鈴木沙有礼**など戦力充実、満を持して 43 年ぶりの全国出場のためにも 1 つ 1 つ勝ち星を積み重ねて浜松開誠館との再戦に挑み、今度こそ勝利を掴みたい。

最後にどうしても取り上げておきたい選手がいる。東海を賭けて戦う県新人決勝リーグ・浜松学院興誠戦を私が観戦していた時、途中で小柄ながらスピード感にあふれ、プレッシャーをかき分けてゴール下に突進したかと思えばパスをもらおうとディフェンスが来る前に狙いを定めて見事 3P2 本を決めた選手がいた。調べてみると**数原沙輝**、身長 148cm。おそらくあの日香陵アリーナでプレーした全選手の中で一番小柄な選手だったであろう。私はそのプレーに感銘を受け試合後の囲み取材で**杉本貴央**監督に彼女のことをたずねてみた。誰よりも努力を惜しまずひたむきに練習に取り組みそれを限られた出場時間で発揮できる選手であると教えてくれた。バスケットは言わずと知れた身長の高さが優位性となるスポーツ、そのことは誰も否定できないがその中でも彼女のように身長の手短けをもものともせず自分が出来ることを貫き通す姿勢に心打たれ、勝利よりももっと大切なことを学ばせてもらったことを感謝したい。

中部総体準優勝・**常葉大常葉**は、県新人では大会後半でインフル禍が直撃し、ベンチ入り選手がたった 5 人、エース・**堀田**までも欠く苦しすぎる戦力の中で何とか沼津商業から 5 位をもぎ取り、5 年ぶりの県 4 強、そして同じく 5 年ぶりの東海総体も見える位置まで来た。藤枝順心との中部総体決勝では相手の高さに翻弄されて連覇を逃したが、全員がゴールに向かって駆け抜けて素早くパスを繋ぎながらのブレイクがチームの武器、攻撃への切り替え時における初動の速さにも強く意識を置く姿勢やインサイドへの寄りの早さが予選でも印象に残った。

エースは何と言っても長年私が高く評価し続ける**堀田明里**。私の眼では今大会垣内（浜松開誠館）と双璧の最高級ガードである。何度も繰り返し記載したが、広い視野から放たれる絶妙のパス、ディフェンスを引き付けながら突破の糸口を見極めるハンドリング、そしてパーミングを十分に注意しながらも対空時間の長いドリブルでシュートイメージを膨らませて華麗かつ正確に放たれるシュートなど長所と魅力を挙げたら枚挙に暇(いとま)がない。いまだに昨年の中部新人で初めてその華麗なプレーに魅了された衝撃は忘れられない。県新人以降コンディション不良で欠場する試合もあったが、中部総体決勝ではその雄姿を久々に会場で観戦し、3P2 本 14 得点の活躍もさることながら司令塔としてのゲームコントロール、さまざまな状況でリスクヘッジを図るバスケ IQ の高さ、そして阿吽の呼吸で出されるノーブルパスに改めて脱帽させられた。

常葉の強さを実感したのは県新人・5 位決定沼津商業戦、両チームともインフル禍に見舞われ特に常葉はベンチ入り 5 人で臨みその 5 人で 40 分間戦い抜き 100 点ゲームで勝利、堀田をも欠く中で**池田千穂** 27 得点・**名倉咲奈** 25 得点と奮闘、外からは**三田優里愛**が 3P3 本を決めてさらに彼女が献身的かつ早めのディフェンスで貢献、5 人が気力で戦い抜いた試合が印象に残る。その他にもボールをドリブルキープしながら時機を捉えてパスを出す**野入ひな**、相手ブロックをか

わすフックシュートが魅力の**佐野麻帆**、5人で戦った沼津商業戦でゲームキャプテンを務め鬼気迫る表情で勝利に邁進、中部決勝ではセンターライン付近からのドライブに対応されると巧みなユーロステップでディフェンスのタイミング見事に外した**佐野梨帆**、ドライブからシュートに行く際相手のブロックを瞬時に予見してキックアウトする**名波千尋**などの布陣で、就任4年目・**佐野恵子**監督初の県4強入りを目指す。そのために超えるべき壁は浜松南、中部総体で敗れた藤枝順心同様高さで勝る相手に今からその対策に余念がないだろう。

日大三島は3年ぶりの県総体出場を果たした。令和5年の県総体後部員が急激に減少しその年のウインター予選は部員不足で出場できず、その年の新人戦は伊豆伊東との合同チームで出場した。その後は単独チームで出場を重ね、昨年の東部総体では11位になったがその時の東部地区県切符は10枚、悔し涙をのんだ。その悔しさをバネに今回合同チームの経験がない純血メンバーで東部総体10位となり見事県総体に辿り着いた。下級生の時からレギュラーとしてコートに立ってきた現3年生を中心に、互いがコミュニケーションをとって諦めないハードなディフェンスやルーズボールからオフェンスチャンスを生み出すチームに成長、今回格上相手にどれだけ粘り強いディフェンスができるのか、そして自分たちのオフェンスが展開できるのか、先手必勝の精神で相手に離されずにどれだけ時間を戦えるかを必戦必勝の大きな課題とする。

粘り強いディフェンスでゴール下を守りリバウンドへの意欲はチーム随一、小柄ではあるが走れるインサイドプレイヤーのキャプテン・**田形はる**を攻守の核として、3Pシューターとして広い視野を上手に利用しながら自らのパスでチームのシュートチャンスをクリエイトして仲間にも具体的指示を出しながら自らのディフェンスで流れを変える**根緒美来乃**、広いシュートエリアから勝負所での決定力が魅力で相手エースへのディフェンスも担う**梅原朋華**、インサイドでの力強い攻めで飛龍戦8得点、ゴール下のディフェンスも卓越した技術を持つ**木島良美**、スピードあふれる突破力で得点を量産し粘り強いディフェンスが信条の**小久保芽衣**などのメンバーで優勝候補・浜松南に挑む。

30ページにも及ぶ大会展望の最後を飾るにあたり、このブロックに潜む1回戦最大の注目カードを紹介して締めくくりとしたい。「**駿河総合ー浜松商業**」という唯一の県新人ベスト16同士の対決が早くも初戦で実現する。両雄は昨年も県総体1回戦で対戦し熱戦の末11点差で浜松商業が勝利を挙げたが、1年前と今では当然ながら双方ともに大幅に戦力アップがなされていて過去の対戦成績だけでは単純に優越は判断できない。

駿河総合は一昨年の県総体に中部10位で2年ぶりの出場を果たして以降、大会を重ねるたびに着実に順位を上げ続け、次の中部新人で9位、昨年の中部総体8位、今年の中部新人6位で県新人3年ぶりの勝利を挙げ、今回の中部総体では準々決勝で静岡商業に惜敗したものの最終日には粘る静岡大成の追撃を振り切り5勝目を挙げ見事中部5位を勝ち取って県総体勝利も狙える位置まで来た。継続するハードなトレーニングに裏打ちされた強靱なフィジカルを武器に鍛え抜かれた鉄壁の守備で試合の流れを引き寄せるチームディフェンスが最大の特徴、その中でもエース・**岸山愛海**が見せる鋭角に切れ込みディフェンスも対応できないスピード満点のドライブや、上位の長身選手相手に mismatch になりながらも必死に面取り合戦に従事するインサイドの砦を担うチームの心臓ともいえるべき大黒柱・**小澤彩葉**、ここぞという場面で幾度となく起死回生の3Pを決めて窮地を救ってきた**青野愛琉**と**伴野結奈**などの戦力を中心に、個々の能力だけに頼るのではなく多様な戦術とスクリメージ(対人練習)そして日々の練習で培った組織的バスケで浜松商業に競り勝ち、4年ぶりの県総体ベスト16を狙う。

一方の**浜松商業**はベスト4を狙った西部総体・浜松学院興誠戦で最終Qに怒涛の3P攻撃を浴

びせて最終的に5点差まで詰め寄ったが及ばず惜敗、5位決定戦でもエース・川上奈子が23得点を挙げる大活躍で浜松市立を倒して勢いに乗る磐田北も競り負け西部6位に終わった。一昨年県総体7位、昨年ベスト16と令和5年から3年連続で県総体勝利を挙げている実力派、今回も負けられない一戦となる。西部総体を見た印象としては、ランアンドガンオフェンスを主体にしながらも全体的に高い3P決定力を持ち誰もがロングシュートを狙えるチーム、また鍛えられたディフェンスで堅実に守備を行い相手のミスを生かせるプレーが多く見受けられた。森下恋や荒川結月がドライブからのアウトレットパスを出して攻撃の起点となり果敢にゴールアタックを続けて相手ディフェンスを切り崩し、鈴木遥陽は入り出したら止まらない高確率の3P能力がアドバンテージ、浜松学院興誠戦では4本決めてゲームをアップセットさせる爆発力を秘めている。エース・玉川冴はドライブからそのままシュートを狙うプレーで守る側の注意が集中しがちな3Pだけでないオフェンスへのスパイスとして効果的な役割を果たしている。

こうして資料や映像・情報を参考に両チームの特徴をいくら羅列しても私自身今でもどちらが優位か全く予想出来ない。長所を多く抱える両チーム、今わかっていることはたった一つ、最後の最後までつれる手に汗握る展開となり、ほんのわずかな致命的ミスが勝敗を左右し命取りにもなりうるということ。「百聞は一見に如かず」大会までさらなるブレインストーミングを重ねながら、当日私はこの試合を「県協会広報委員長」としての立場と眼力で、直接会場で観戦したいと思っている。

その他の注目選手として、花枝美音・鈴木愛海・小林莉子(常葉大常葉), 大棟和香奈・平野由起(日大三島), 曾我部一花・増尾瑠花・大竹琉菜・小河路希美・杉浦佳音・高柿美咲希(浜松商業), 高橋和花・縣舞桜・川口瑠楓・加藤栖那・近藤莉愛・佐野風紗・岩本優香里・増田向日葵(浜松東), 緒方智咲・山城心春・一ノ瀬未莉・原崎瑠依・増田百萌那・岩堀莉愛・大石咲彩(駿河総合), 多々良心優・河合咲音・森陽奈子・山内葵・田名部桃凧・繁田春亜・原田美羽・山本菜奈子(東海大静岡翔洋), 浅田海・五十嵐小梅・春川姫香・前田うらら・清優音・飛田萌衣・井出百花・深瀬ゆり(沼津中央)などを挙げたい。